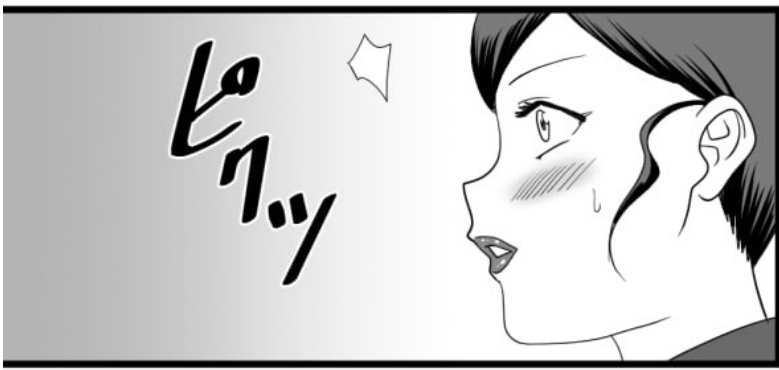


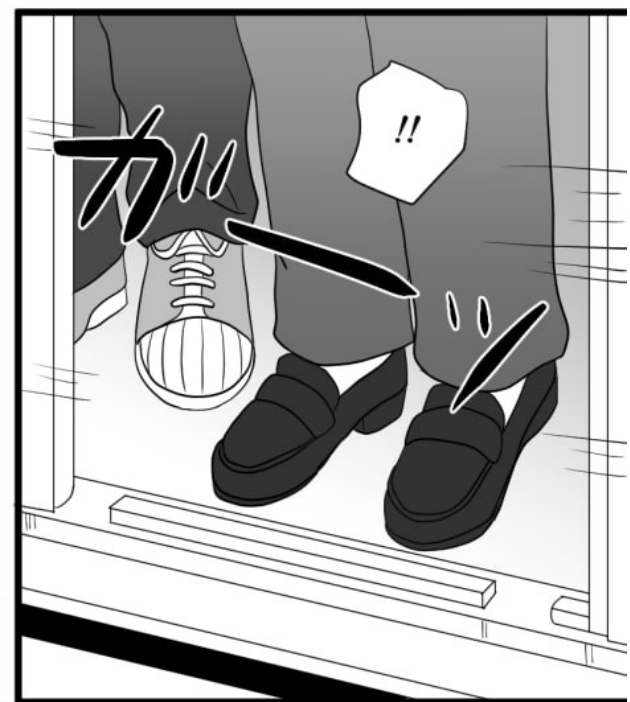
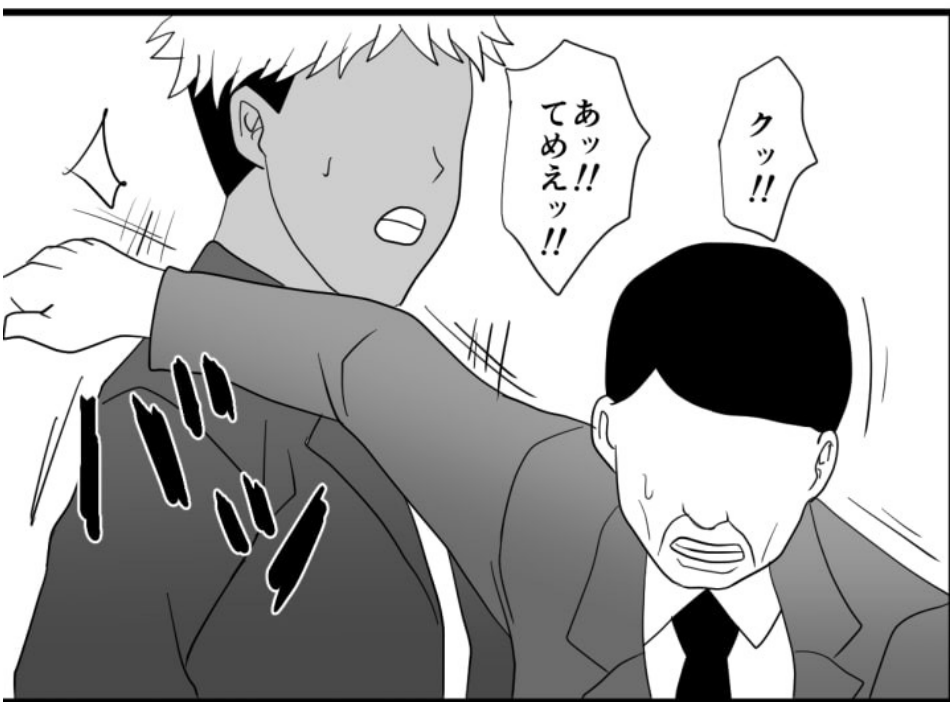



獣  
の  
棲  
家




**R18**  
ADULT ONLY  
成人向け作品につき  
18歳未満閲覧禁止








助けてくれて  
ありがとう…




まさか間宮君に  
助けてもらうなんて  
思ってもみなかった…

なんだ…  
ケツ触られてたの  
先生かよ



あの痴漢野郎  
変わった趣味  
してんだな

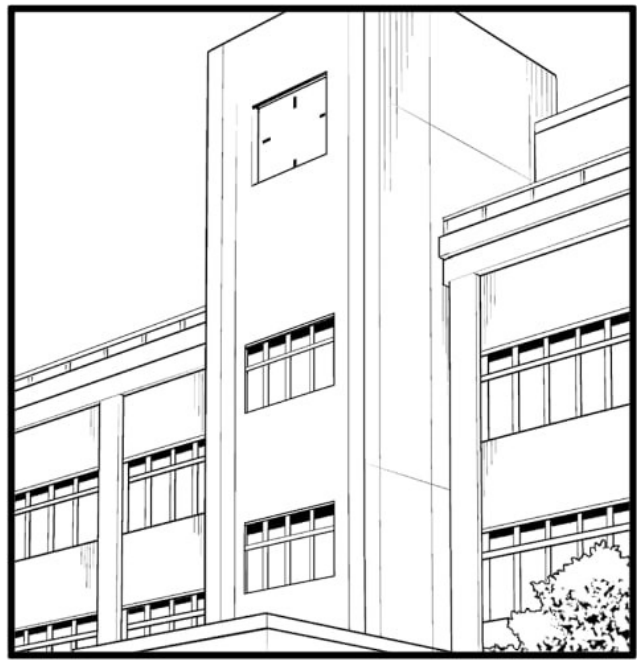
お礼言ってるのに  
見も蓋もないこと  
言うわね…



間宮亮  
私が受け持つクラスいちの問題児  
何事にもやる気がなく  
授業も頻繁にサボる生徒







なんだよ先生  
急に呼び出して

痴漢から助けたお礼が  
どうしてもしたいとか？



.....



間宮君：  
あなたうちの子に母親が  
担任だからテストで  
良い点つけてもらってるとか  
言ったそうね？

あ...



いくら親子だからって  
先生がそんなことすると  
本気で思ってるの？



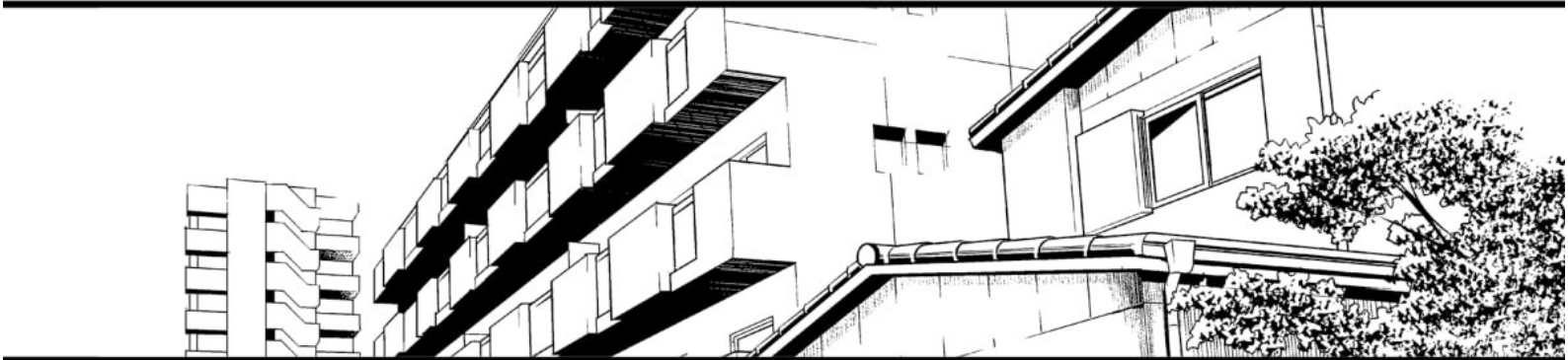


ゲエ…  
家に来るのかよ

ここですね!?



普段の授業態度も悪いし…  
いい機会だから親御さんも  
交えて話し合いをします!

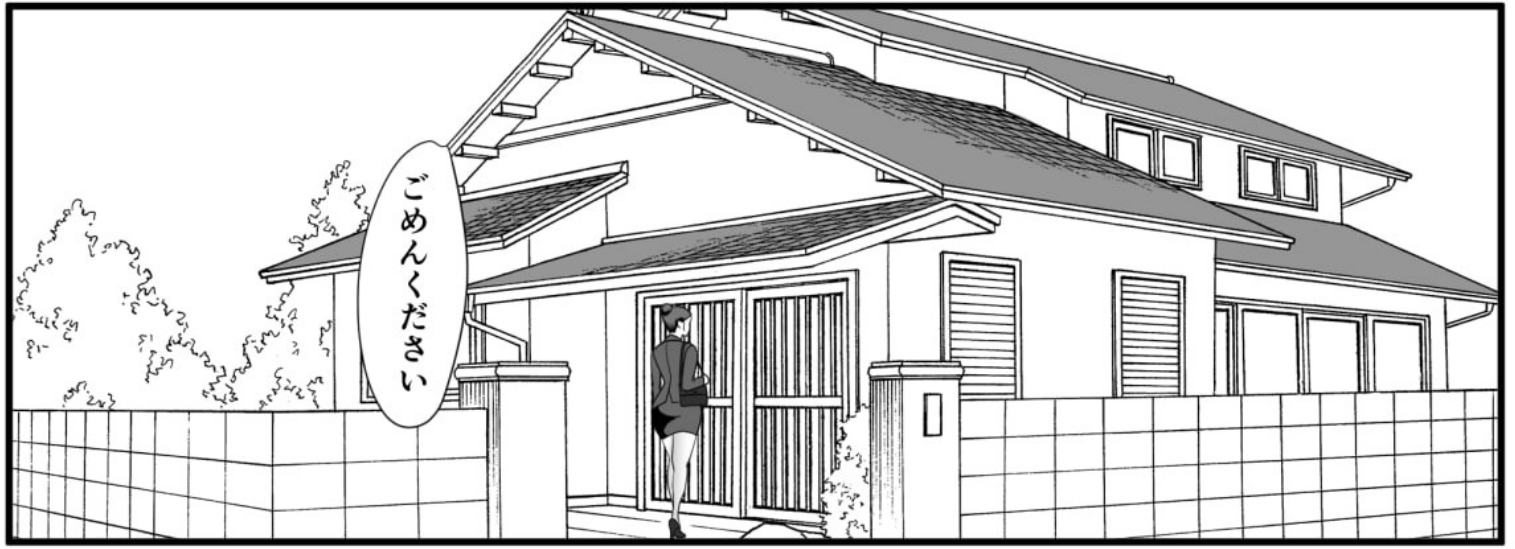


待ってて  
お母さん  
ガツンと言ってくるから



それじゃ新一  
行ってくるわね

いってらっしゃい

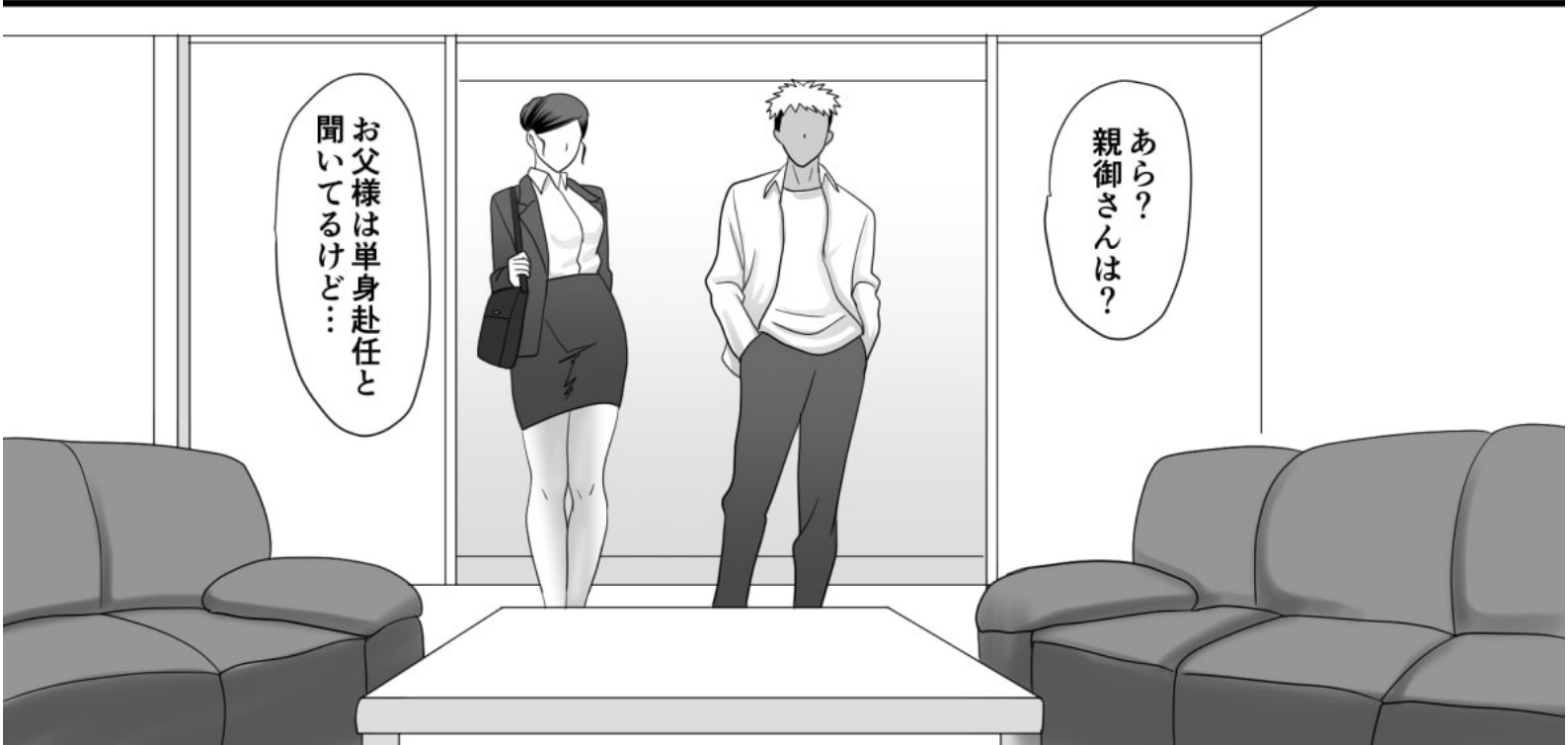


今日こそきっちり話をつけさせて貰いますからね!



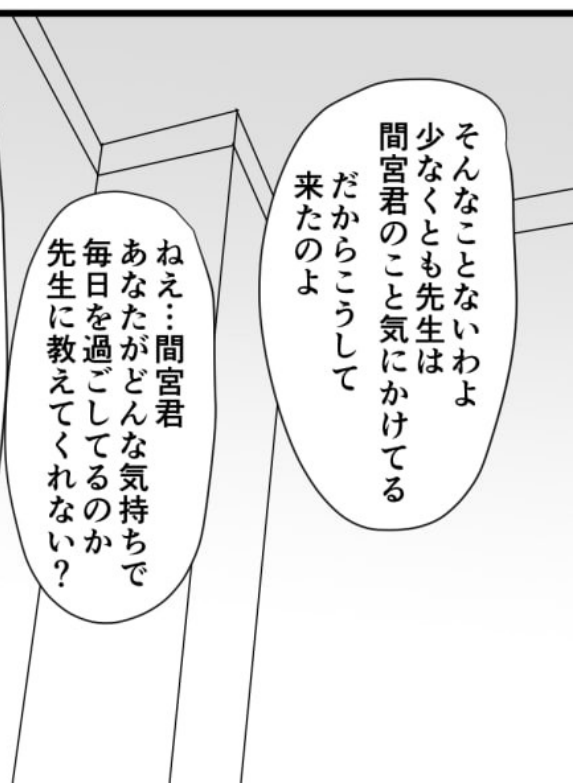
当たり前です!

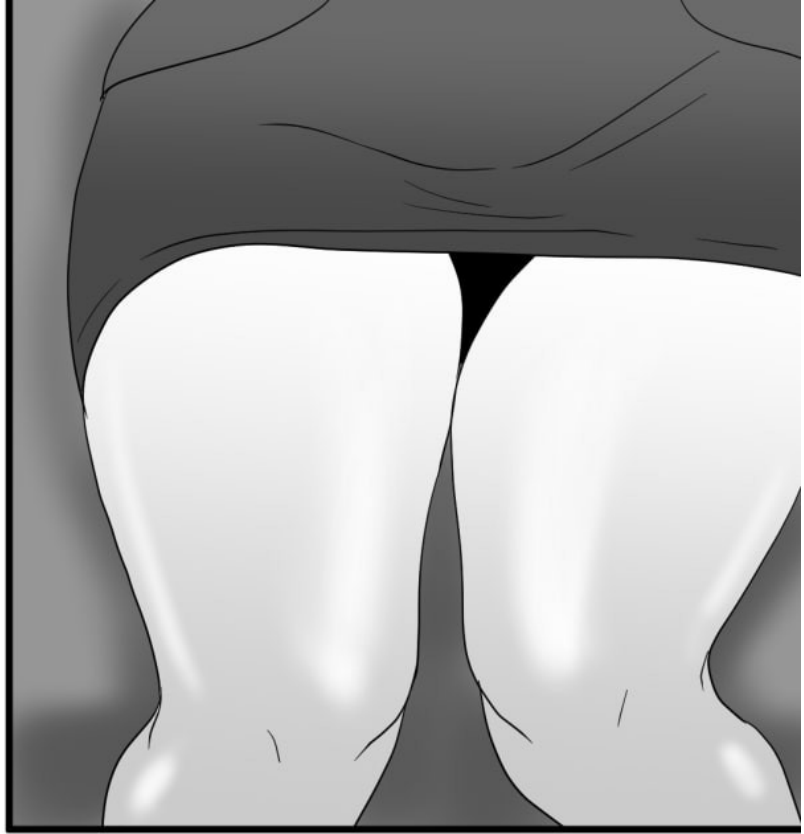
先生  
本当に来たのかよ...



お父様は単身赴任と聞いてるけど...

あら?  
親御さんは?





私のこと？  
いいわよ  
何でも聞いて

そしたら俺が何を  
望んでるのか教えてやるよ

そうだな…  
俺のことばかりじゃなくて  
先生のことも教えてくれよ



…

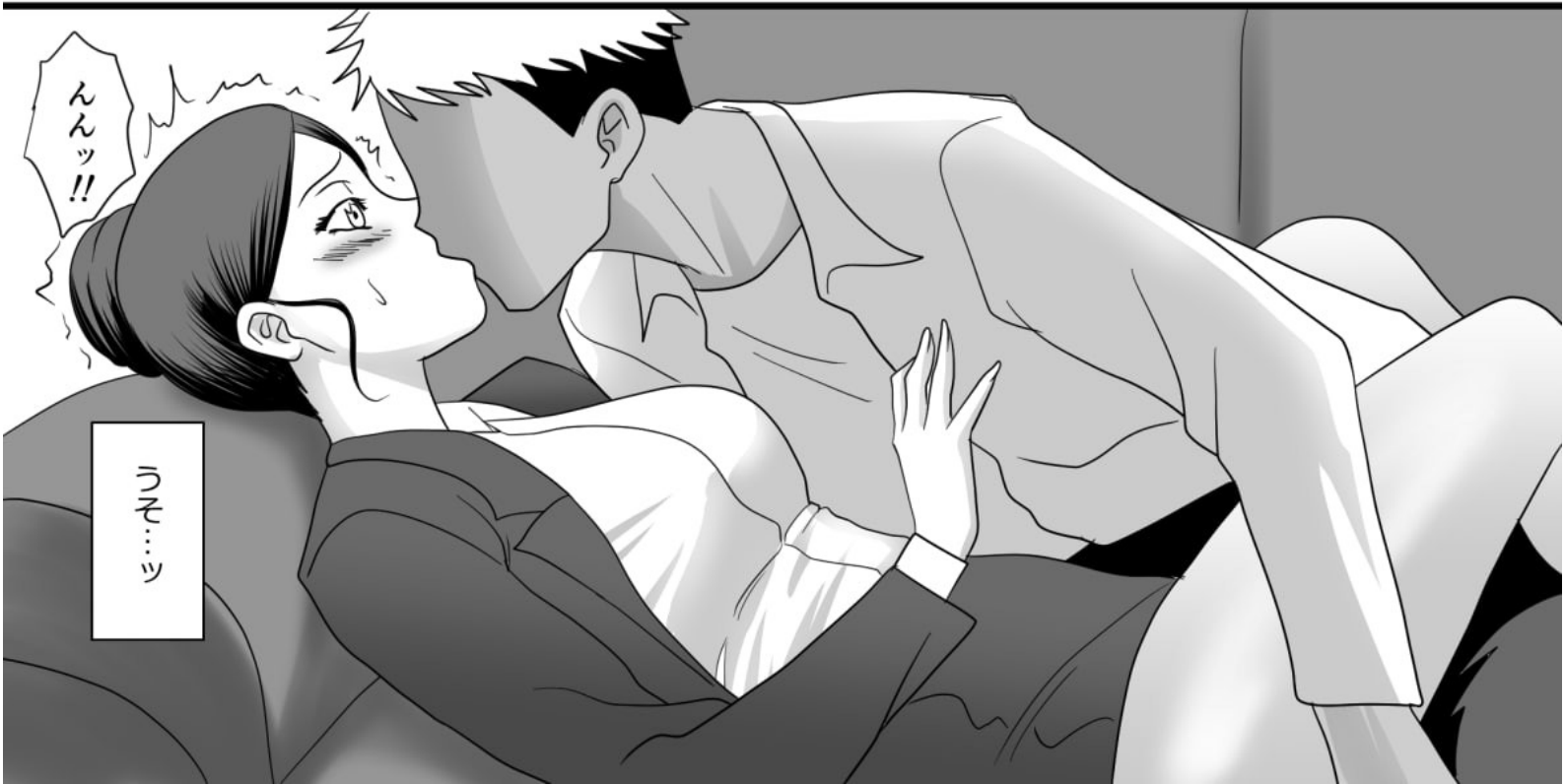
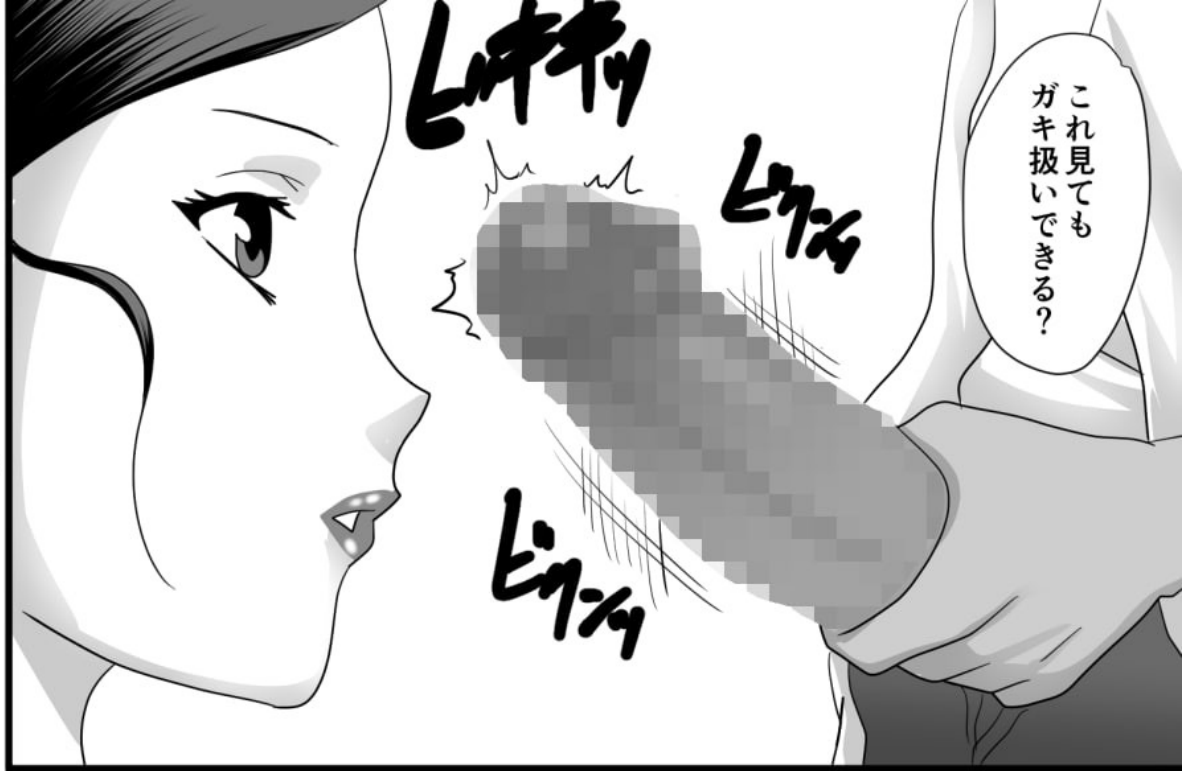


もちろん教師として  
あなたたち生徒のこと考えて  
過ごしてるわよ

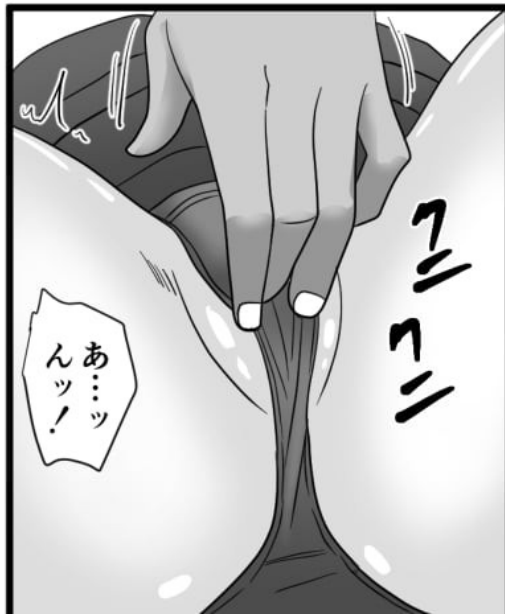


先生みたいな人って  
毎日どんな風に過ごしてるの？











先生のここ…  
すげえキレイだよ

ギヤあッ!!

ムニツ

ムニツ

や…あッ  
恥ずか…ッ



ヌメ…



あッあッ  
ダメッ!

は…あッ

いや…舐められてる…  
私の女の部分を間宮君に…

カ  
ギヤあッ!!





口でイカせれば  
挿入されずにすむかも…



あ…

先生…俺のも  
しゃぶってよ



口内に満ちていく  
張り詰めた熱と脈動…

男性の匂いと味が  
舌の奥に広がっていく…

私：なんてことしてるの…  
見るだけでも躊躇いがあった  
教え子のペニスを口に含んでる…

ん…ん…

クソッ

クソッ

ふ…  
ん…

クソッ

快楽を得るためだけに  
作られた輪の中で…  
互いの性を味わいながら  
理性と尊厳が溶けていく…

クソッ

クソッ



お願い…  
早くイッて…

クソッ  
クソッ  
クソッ



ん…

ん…!!

クソッ

ズッ!  
クソッ  
クソッ  
クソッ



クソッ  
クソッ  
クソッ







私…飲んでる…  
生徒の精液を…

喉奥に絡みつく  
塊のような濃さ…

お…おッ!

んうッ!

息ができないほどの  
生臭い匂いと苦い味…

うおッお…ッ



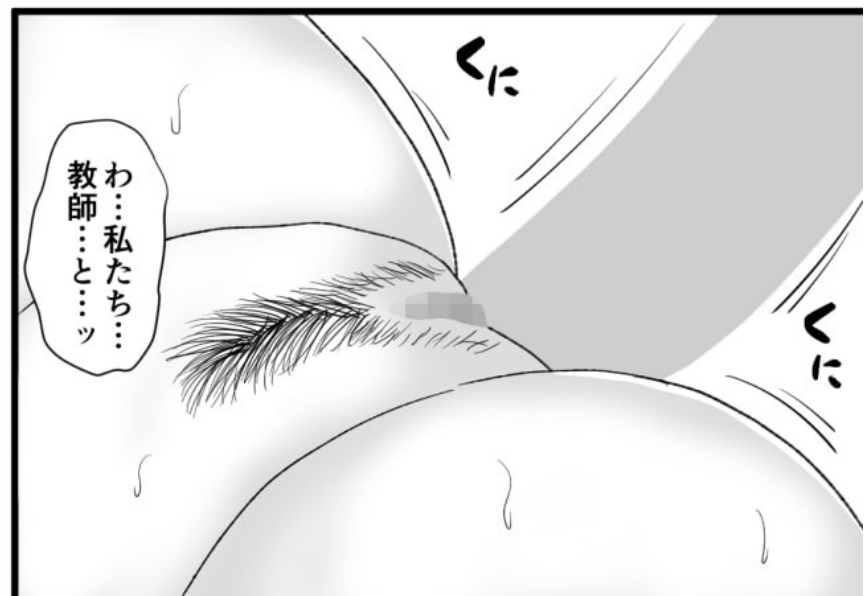
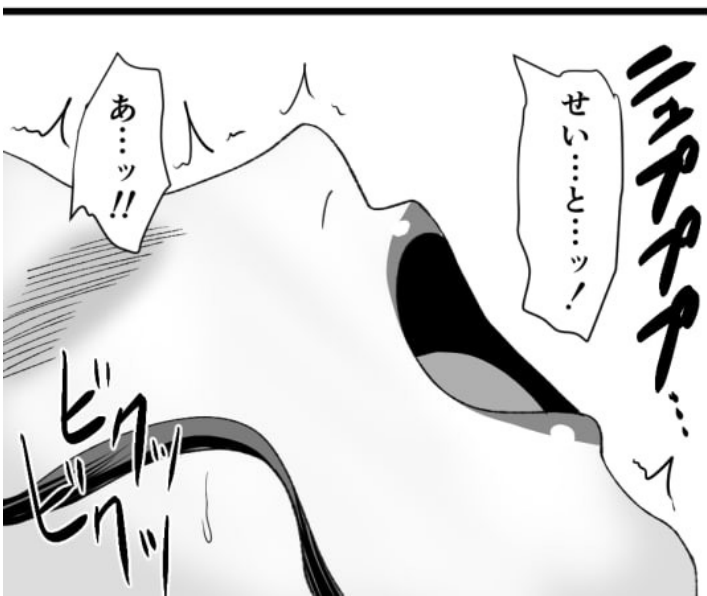
ズルッ

お…ッ…ッ

お…ッ!!

カホッ

ゴホッ  
ゴホッ







あッお……  
大きい……ッ!!

間宮君のおちんちん  
は挿入ってるッ!!

いやあッ!  
挿入ってるッ!!

かっ

かっ

かっ

かっ

ズン  
ズン  
ズン

ズン  
ズン  
ズン

ヌッパッ

ズン



いやあッ!  
大きいッ!!

かっ  
かっ  
かっ

フッ

フッ

フッ



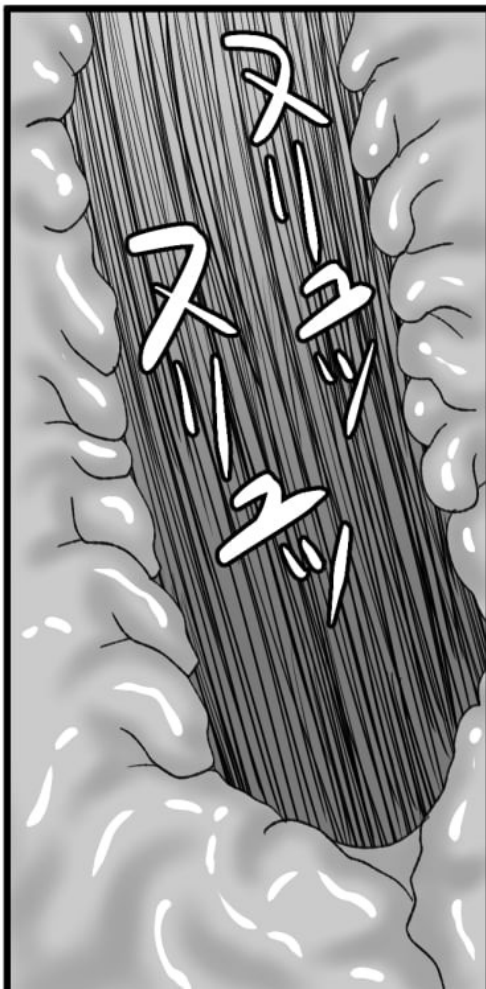


その間にも経験したことのない異物感が私の中を何度も往復して抵抗する意思を挫いていく...

支配するように押し込まれた指が舌に絡まり、かすれた吐息が漏らせない...

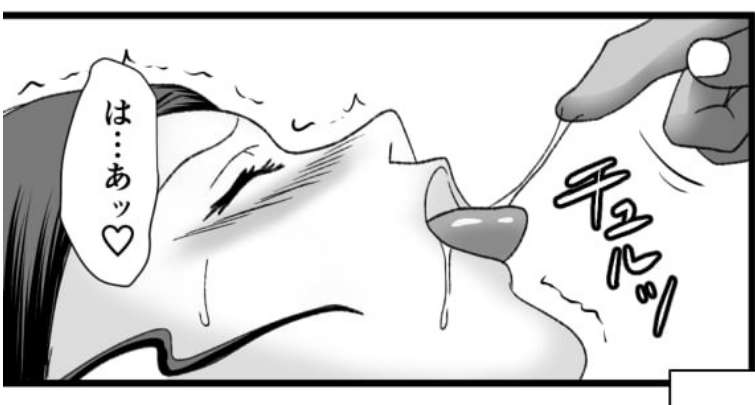


こんな大きさ私知らない...





抵抗できない…  
そつ思つた瞬間から  
拒絶の意思が  
霧散していく…



頭の中では  
拒かんでいるのに  
口からは甘い声が  
出てしまう…

求めていないはずの快感に  
体が正直に反応して…

あッあッ  
あッやッ♡♡

はあんッ♡

おっ  
イイ声  
出てきたな

あッ♡

フッ♡

もつと警戒すべきだった：  
相手はまだ子供だと：  
そう思つて密室で二人きりになる  
状況を許してしまった：

あッ♡  
はんッ♡

教室では毅然とできた：  
厳しく叱ることも  
距離を保つこともできた：

フッ♡

あッ♡

あうッ♡

けれど二人だけの部屋の中で  
性器を結合させてしまえば  
教師と生徒という関係など  
男と女という現実の前では  
何の意味もなかった：

フッ♡  
フッ♡

フッ♡

フッ♡

先生がフェラで  
抜いてくれたおかげで  
長続きするよ…

こんなはずじゃなかった…

先生のオマンコ  
俺のチンポの形に  
してやるからな…

あッあッ♡  
そんな…ッ

早く終わらせるためのフェラが  
却つて長時間の挿入を許すハメに  
なってしまうなんて…

ダメ…  
こんなの…♡

カッ♡

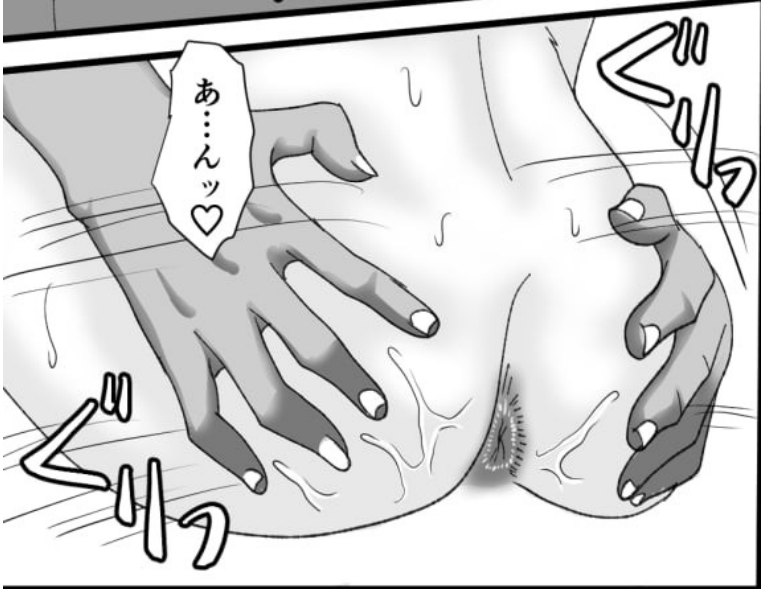
カッ♡

フッ♡  
フッ♡  
フッ♡

フッ♡  
フッ♡

カッ♡







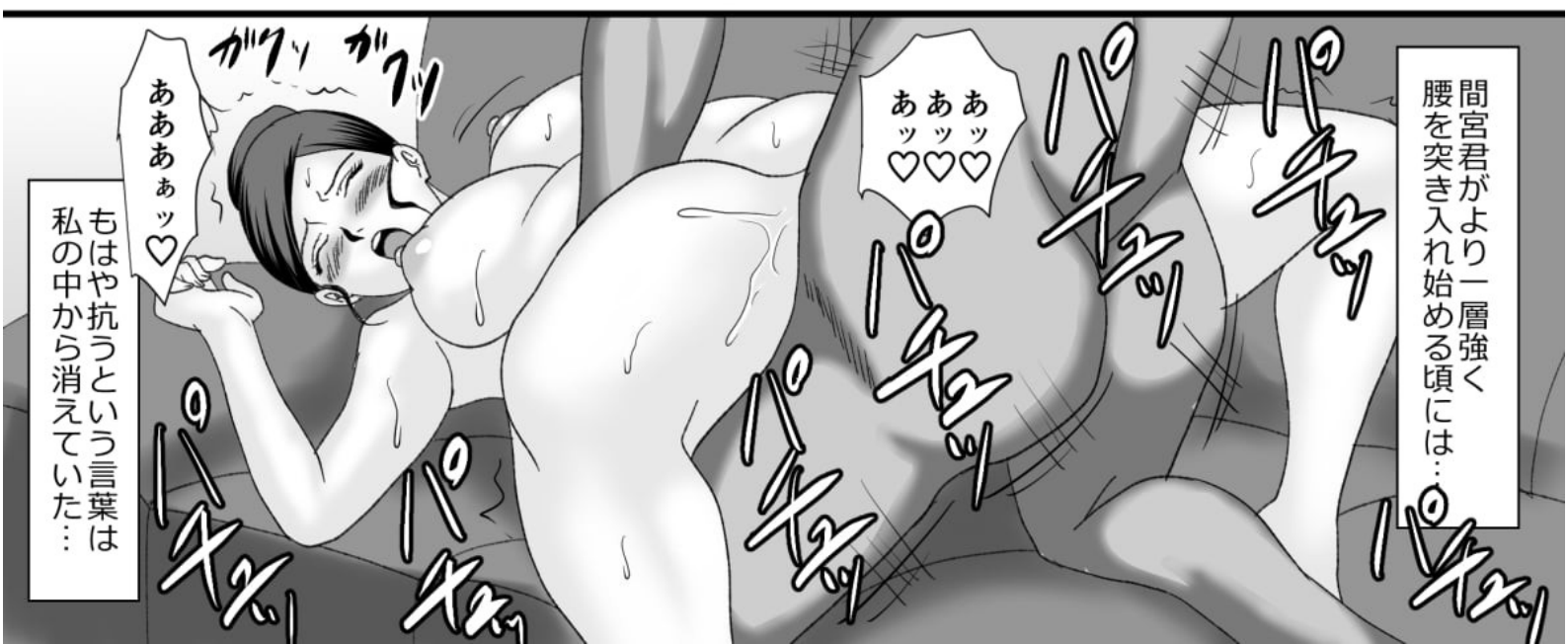
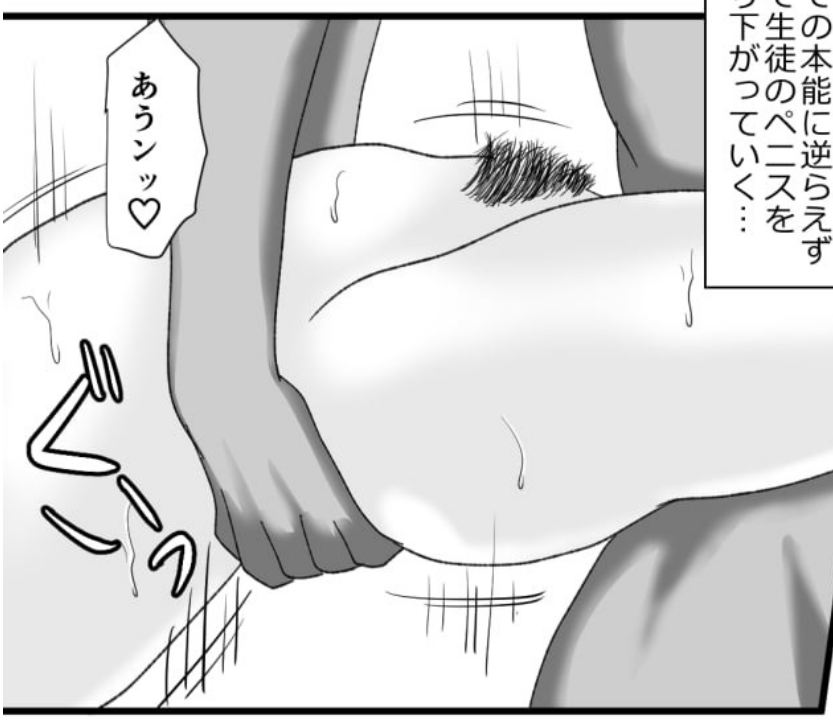


誰にも流されない  
自分でいたかった...

私はもっと  
強いはずだった...

あひッ♡  
フッ

なのに—女としての本能に逆らえず  
ただ快楽に服従して生徒のペニスを  
受け入れる器になり下がっていく...



もはや抗うという言葉は  
私の中から消えていた...

間宮君がより一層強く  
腰を突き入れ始める頃には...

ああッ♡♡♡





どこを擦れば  
女が悦ぶのか…

どこに当てれば  
女がよがり啼くのかを…

あッあッ♡

ひあッ♡



この子…  
知ってる…  
女の体を…

やッ♡

あッ♡♡



どれだけ乱暴に突かれても  
膣が吸い付くように  
応えてしまうことを…

あッはあッ♡

はッはッ♡

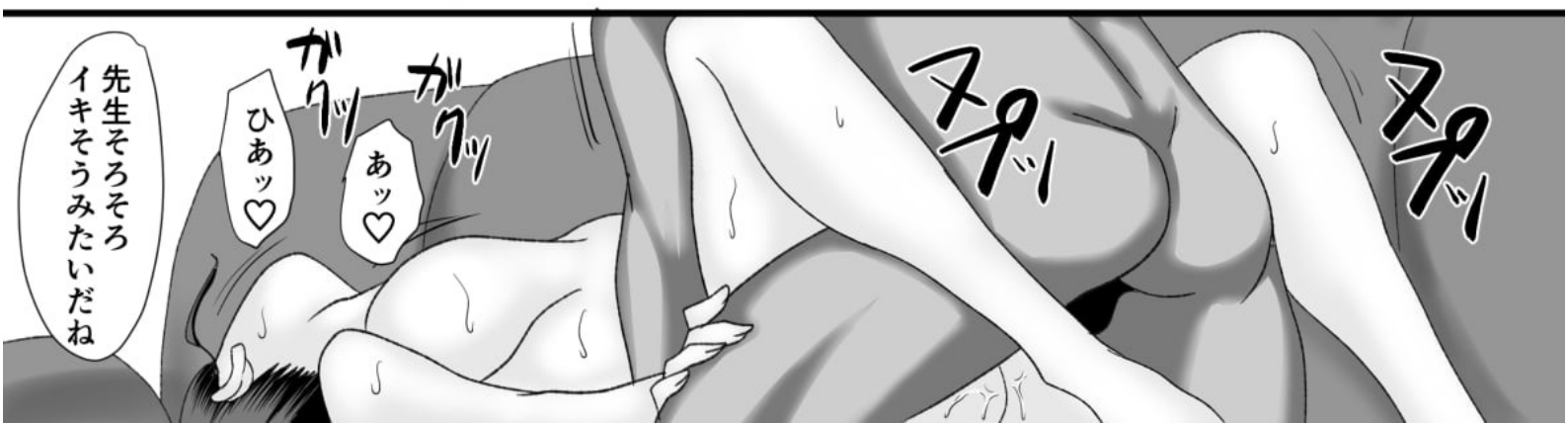




敏感な肉芽を摘まれながら  
繰り返される巧みな挿入：



教師の威厳も女性の尊厳も塗り潰す快楽に  
身を委ねて悶えることしかできない…



先生そろそろ  
イキそうみたいだね



おまんこイキたくて  
たまらないんだろ？

んっ♡  
くうっ♡

ホラ…  
手握ってて  
やるから  
イキなよ…



いいコだ…  
そのまま思い切り  
イッてみな？

あッ♡

はあッ♡

悔しい…  
生徒に小娘扱いされてるのに  
従うことで安心感を得てる…

耳元で囁かれる絶頂への誘いに  
このままイッていいんだと…

新一…許して…  
お母さんイッちゃろう…



あはあアあ  
あアあッ♡

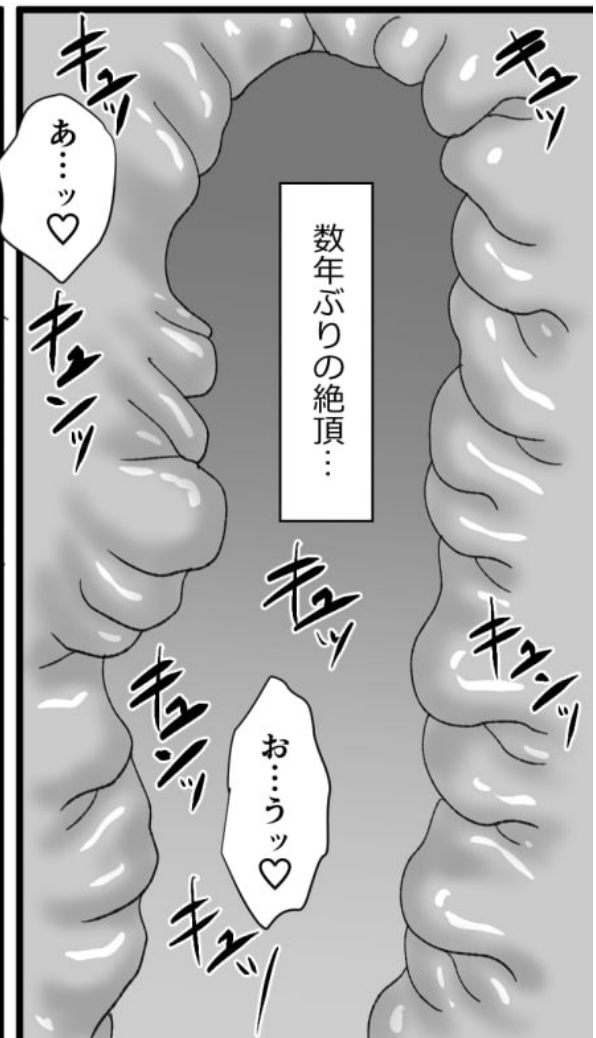
あなたをいじめた相手に  
イカされちゃうッ!!



は...あッ♡

はあ...♡

もう味わうことなんて  
ないと思ってたのに...



数年ぶりの絶頂...

あ...♡♡

お...うッ♡



よりもよって  
間宮君の腕の中で  
昇りつめてしまうなんて…

生徒にイカされて  
どんな気分？

あ…く…

屈辱…ッ



でもよかったろ？

あッあッ♡

あッ♡



この家は獣の棲家だった…

捕らえた獲物を  
捕食するための…

そんな場所に私は…  
何の警戒心もなく  
ノコノコやってきて  
内側から肉を食い荒らされて…

はあッ♡

あッ♡

はああッ♡  
あんッ♡

無様な痴態を晒すうちに  
この獣の味を覚えさせられた  
従順な餌になつてしまった…

奥まで届くペニスに悦んで  
締め付けて応えてしまう体…



フッ  
フッ  
フッ

あッ♡

くはッ♡

自分がこんなに  
浅ましい女だったなんて  
知らなかった…

くはッ♡

知りたくなかった…

あッ♡





はッはッ♡

はあッ♡  
あッ♡

あんッ♡

あッ♡

いつの間にか足を担がれた状態で  
強い挿入に晒されていた…

この時点で彼の狙いに  
気づくべきだったけど  
そんな余裕はなかった…



先生そろそろ  
膣内<sup>なか</sup>でイクよッ!!

えッ!?  
待ってッ!!

膣内<sup>なか</sup>はダメッ!!

膣内<sup>なか</sup>で射精<sup>だ</sup>されたら  
先生も絶対  
気持ちいいからさッ!

そんなの  
どうでも  
いいからッ!!

射精<sup>だ</sup>すなら  
そと…にッ!!

この一線を越えてしまえば  
もう戻れないと  
頭では分かっているのに…

膣内…ッ  
ダメッ♡

うッ♡

妊娠…  
しちゃ…うッ♡

体を折り曲げられた状態では  
どうすることもできない…

ふッ♡

んうッ♡

恐怖とも快感ともつかない震えが  
全身を駆け抜けて思考が真っ白になる…

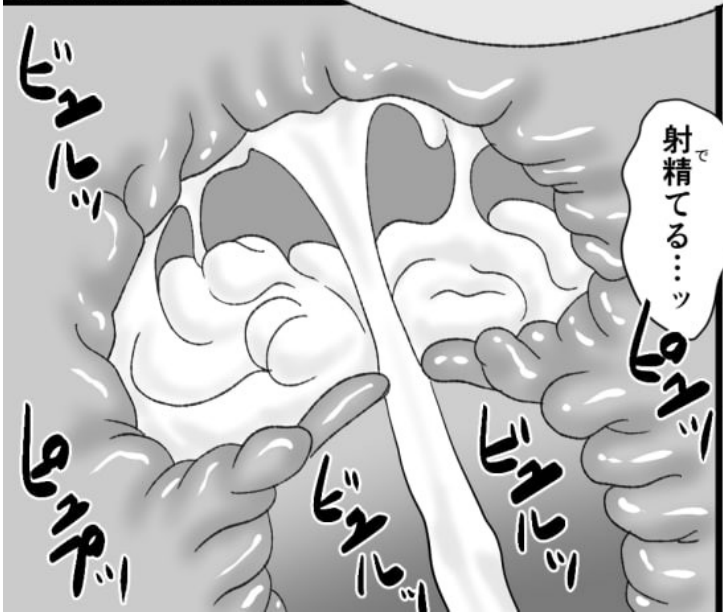
あッあッ♡  
あッあッ♡

イヤッ♡  
ダメッ♡

イクッ♡

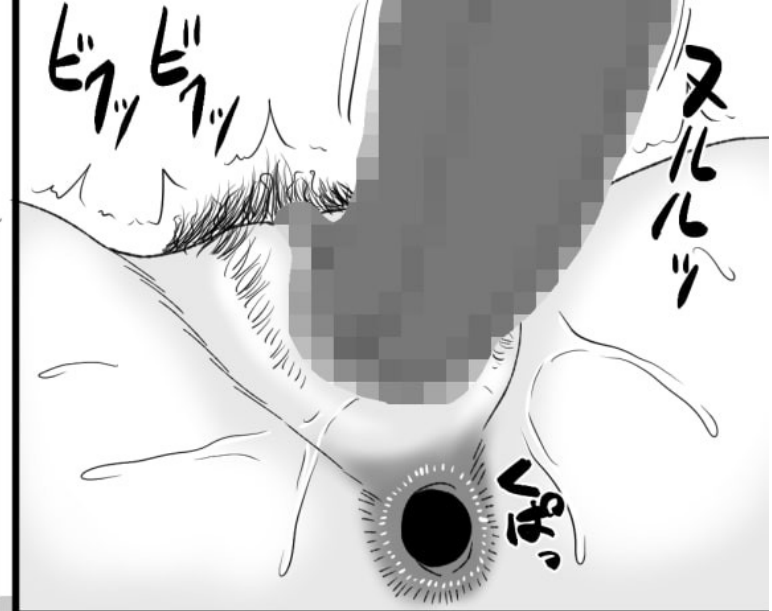
罪の重さを膣奥で感じながら  
それでも拒めなかった…

イクッ♡



射精てる…ッ

あ…あッ♡





お：先生  
髪下ろしたら  
セクシーじゃん



シャワーで  
洗い流せば  
大丈夫だって

あ…



教師失格だわ…

無理やりとはいえ生徒に抱かれて  
絶頂を極めてしまったなんて…

ニャーニャー



洗いっこ  
しようか？

…ッ

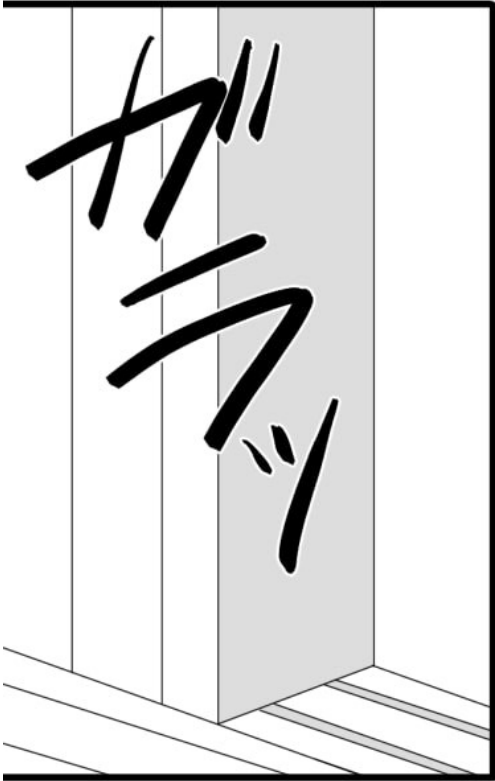


バカなこと言っていないで  
さっさと出ていきなさいッ!!

おわ…



ウン：  
こんなに濃いのを  
腔内に注がれただなんて…







おらッ

ビッパ  
ビッパ

は  
じ  
じ  
じ  
ミ  
♡

ブルッ

アッ

ブルッ

あッやあッ♡  
また…挿入れ…ッ♡

ブルッ

あッ♡

はあッ♡

あッ♡  
あッ♡

ブルッ  
ブルッ  
ブルッ

今度こそ無遠慮な行為を拒まなきや…  
そう思ってるはずなのに…

背後からの深い挿入によって  
腰の奥からせり上がってくる  
快感に抗えない…

アッ  
アッ

ブルッ

まだ絶頂の余韻が残る体の奥まで  
間宮君のペニスが届くたびに  
女の部分が熱を持つてうねり  
自然と絡みついてしまう…



あッ♡  
カグッ  
カグッ  
カグッ  
やん♡  
あん♡  
あッ♡

精液をかき出しやすいように作られた形が  
奥まで擦り上げるたびに息が詰まり  
抜けていった思った精液のぬくもりまで  
またかき混ぜられて蘇る…



あッ♡  
ひあッ♡  
体の奥は正直すぎるほどに  
快楽を欲しがっていた…

あはあッ♡  
カグッ  
カグッ  
カグッ  
プッ  
プッ  
プッ  
フッ  
フッ  
フッ

しっかりとしがみついてないと  
頭から落ちちゃうよ…

密着した性交を余儀なくさせる  
卑怯なやり方に  
思いつく限りの言葉で  
罵ってやりたいのに…

あ…くッ♡  
卑怯者…ッ♡

おは…ッ♡

口から出る言葉は真逆の…  
悦びを表わす女の声だった…

ああお…ッ♡

ユザッ

ユザッ

あッあッ♡  
いやッ♡

私…  
また…ッ♡

また…  
イツちゃ…ウッ♡

ユザッ

ギョッ

ギョッ

ギョッ

ギョッ



あはああああッ♡

熱…うッ♡

ドクッ

ビュルル

ビクッ

ビュルル

ビクッ

ビクッ



その後も続くセックスを拒むという選択肢をもう二度と取り戻せなくなっていた…



まだ…出てる…♡

あ…あッ♡

ドクッ

ビュルル

絶頂の余韻に震えながら間宮君の体にしがみついた最後の一滴まで受け入れた…

再び膣内に熱い精液を注がれると同時に迎えた深い絶頂感にシャワーの音すら遠くに感じながら…



はあん…♡

あ…♡

フアッ  
フアッ  
フアッ



あ…♡

フアッ  
フアッ

あッん…♡

フアッ  
フアッ  
フアッ



学校では可愛い生徒たちに囲まれ  
家では愛する我が子の母親として  
充実した日々を送っていた…

お尻に腰を打ち付けられるたびに  
恍惚と諦念が膨れ上がり  
母親でも教師でもない自分が  
露わにされていく…

抗えない快楽と現実感の喪失の中で…  
気づけば私は間宮君の寝室に連れ込まれて  
犬のような恰好で後ろから躡けられていた…

しかし女としては  
満たされて  
いなかっただと  
気付かされた…

ギンッ  
ギンッ

はあ…♡

あんッ♡

ギンッ  
ギンッ

あ…はッ♡

フアッ  
フアッ

ああ…♡♡

フアッ  
フアッ  
フアッ  
フアッ

ギンッ  
ギンッ

フアッ  
フアッ

フアッ  
フアッ



教師の私が…  
生徒にベッドで  
教えられるなんて…

先生の  
ケツの穴  
丸見え♪

ヒクヒクさせて  
そんな気持ち  
いいのかわよ?

あッ♡  
ひん♡

あッ♡  
ヌプッ

あッ♡  
やッ♡  
ヌプッ

見ない…でッ♡



もっとよく  
見せてみるよ  
オラッ

覗かれてる…  
最も恥ずかしい部分を  
指で広げられて…

あッ♡  
いやッ♡

絶対に見られちゃ  
いけない相手に…

あッ♡

あんあッ♡

それでも屈辱のはずなのに  
何故か体は昂って行く…

ヌプッ  
ヌプッ

ヌプッ  
ヌプッ

ヌプッ

ヌプッ



その瞬間：私はもう完全に女として支配されてることを思い知らされた：



あッ♡

洩れる声は明らかに辱めを許容している女の喘ぎだった：

自分でも信じられない：体だけじゃなく言葉でも罵られているのに：



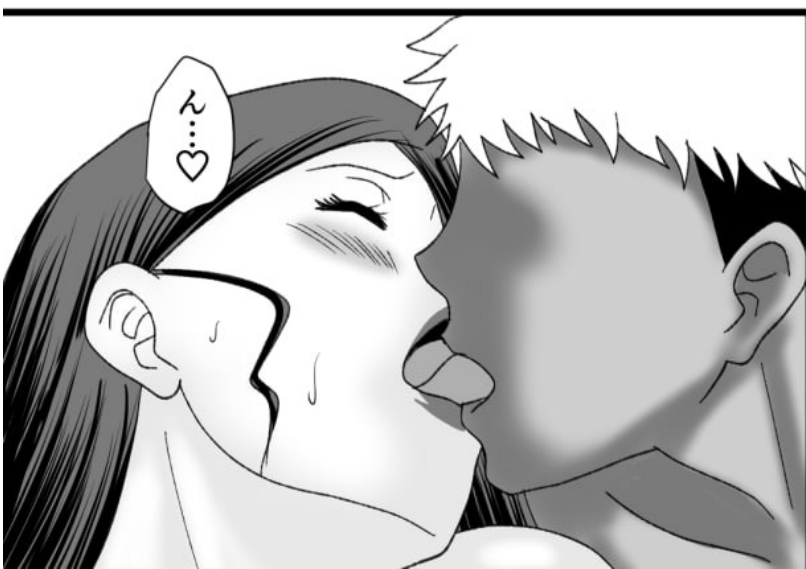
こんなにも長く深く執拗にまるで逃がさないとでもいうように密着して私の内側を何度も押し広げてくるペニスに体は言葉よりも雄弁に伝えていく：

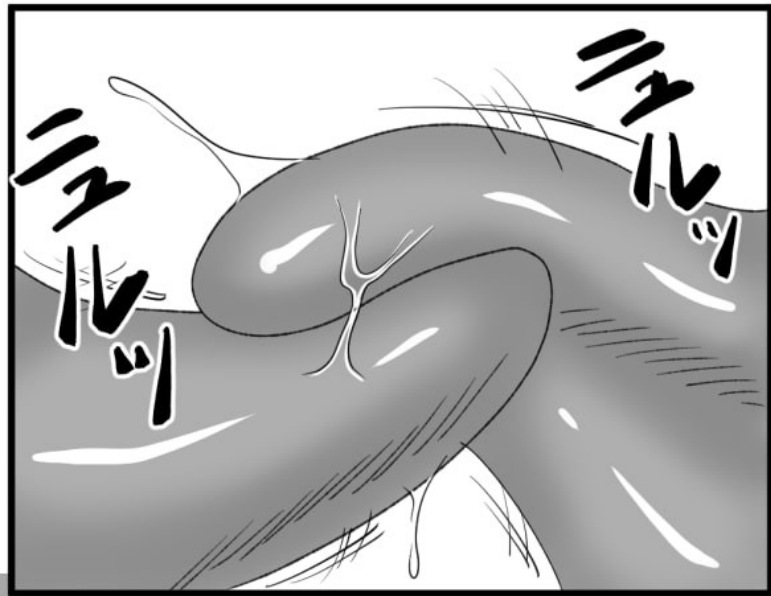
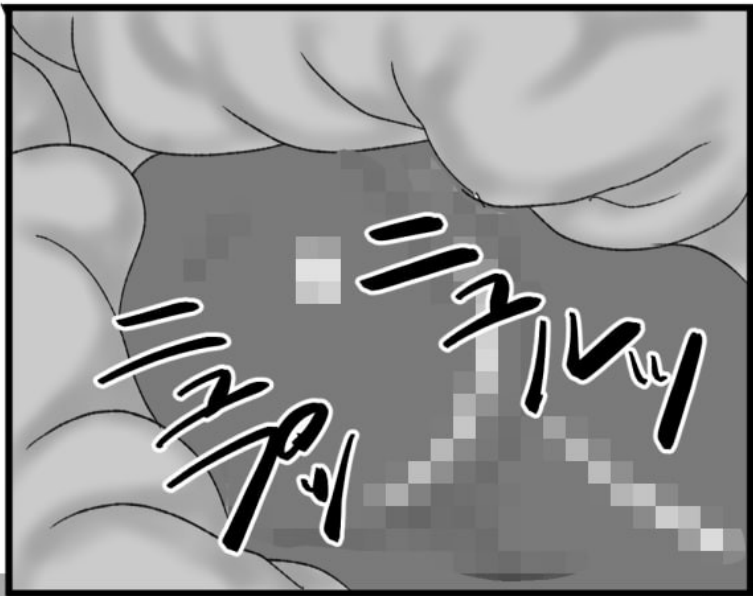
気付けば体だけでなく心の深い部分をゆつくりとでも確実に浸食されていた：

あッ♡  
はん…♡

はあ…♡

は…♡  
はッ♡





口内に挿し入れられた舌を私は拒むことなく受け入れていた…まるでそれが当然であるかのように…

上下の粘膜が絡み合うたびに部屋に響く卑猥な音がさらに気持ちを高ぶらせる…



んっんっ♡

んっ♡

抵抗の言葉なんてとうに消えていた…

ふうんっ♡

ハァッ  
ハァッ  
ハァッ

ハァッ  
ハァッ  
ハァッ



3発目イクよ  
先生……ッ

あッあッ  
あッあッ

私もまた  
イク……ッ

イッちゃ……ウッ

絶倫という言葉は知っていたけど  
この子がそうだったなんて……

イ……ッ  
く……ッ

それが分かった時にはもう  
膣内に射精されると同時に  
絶頂を迎えてしまう体に  
作り変えられていた……

ドブッ

ドブッ

ドブッ

あんっ♡

あっ♡

教えられた…  
色んな体位で  
女の悦びを…

はあッあッ♡

フキッ

フキッ

間宮く…んっ♡

フキッ

ググチュッ  
ググチュッ

フキッ フキッ  
フキッ フキッ

与えられる快楽に震えながら  
自分がどうしようもなく  
女にされていくのを感じていた…

フキッ

あッあッ♡  
当たるッ♡

ひいあッ♡  
当たるうッ♡

体位が変わるたびに  
奥を突かれるたびに  
心の奥にあった  
知らない自分が顔を出す…

フキッ

フキッ

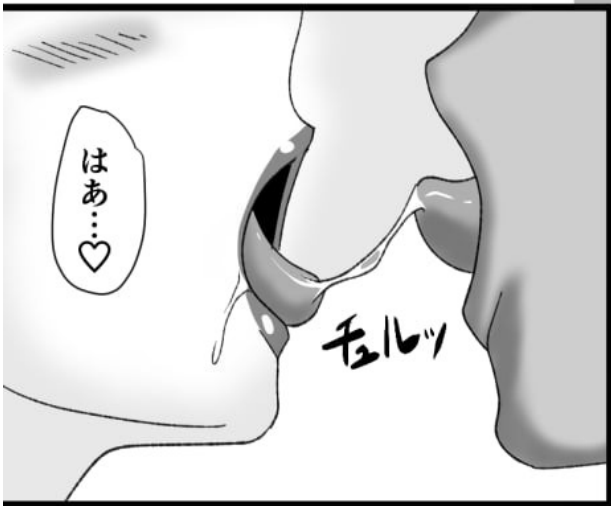
フキッ フキッ



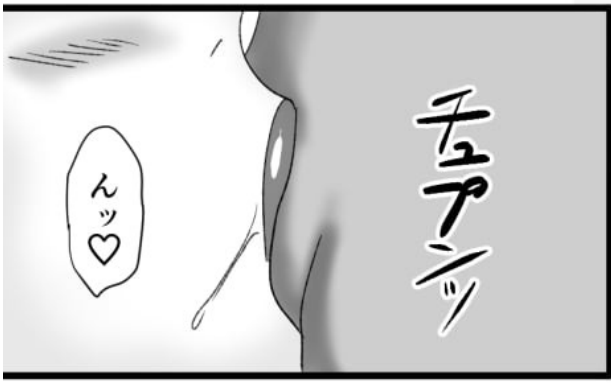




んう…♡



はあ…♡



ん♡



膝の具合がいいだなんて…生徒にそんなことを言われて屈辱に思っべきなのに…

ん…♡

ふう…♡

ん…♡

そんな言葉すら愛おしく感じて自分から唇を重ねてしまう…



舌を絡ませ唾液を貪り合う…

教師としての矜持は熱い体液と一緒に溶かされていった…

ん…♡

ん…♡



普通なら顔をしかめる行為も私は受け入れてあげたいと思うまでになっただけ…

促されるままに流し込まれる生ぬるくて重たい感触を喉を鳴らして飲み込む…

んッ♡

んうッ♡

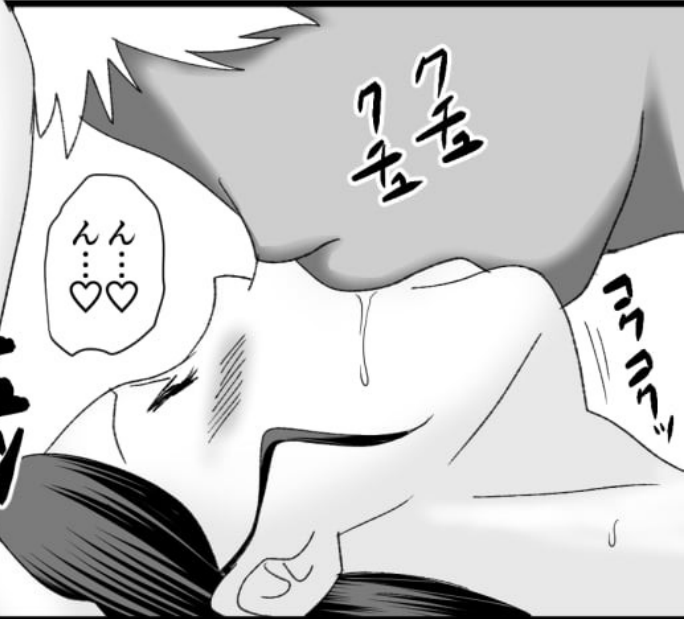
ふうん…♡



ツバ飲んで

あ…

くわっ…



んん♡♡

んん♡♡

んん♡♡



射精の気配を感じた時拒むはずの言葉が喉で溶けて消えた…

挿入が強くなってきた…また膣内でイクつもりね…

アッ♡

アッ♡

アッ♡

アッ♡

ギンッ

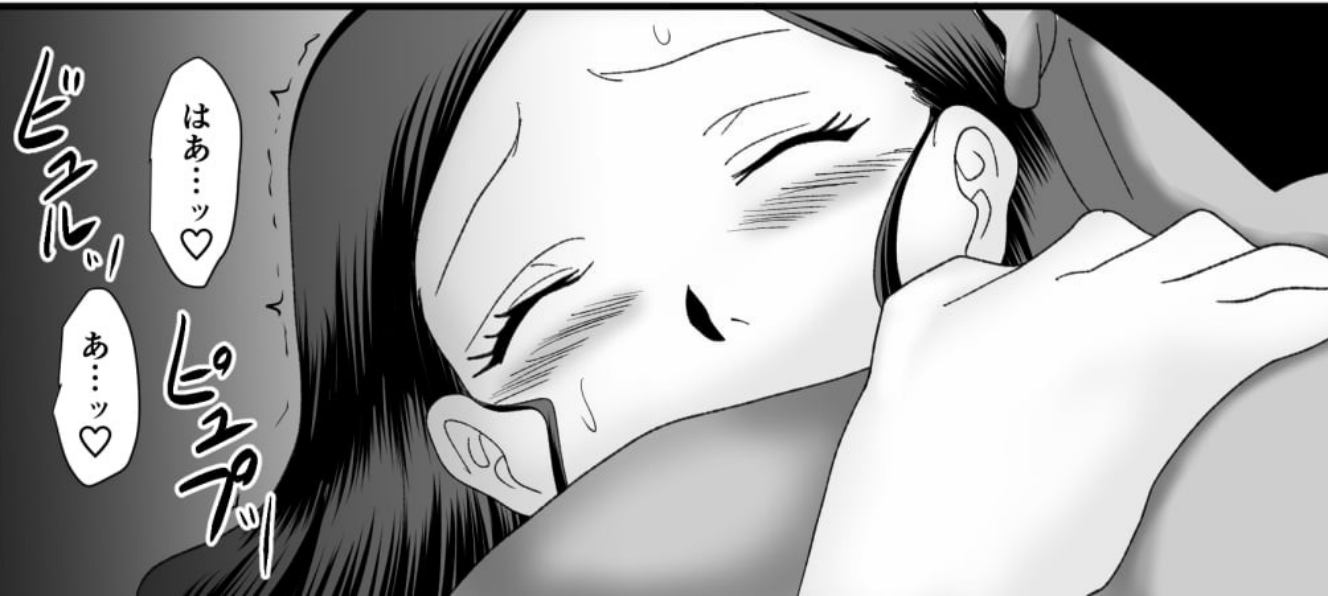
ニギッ

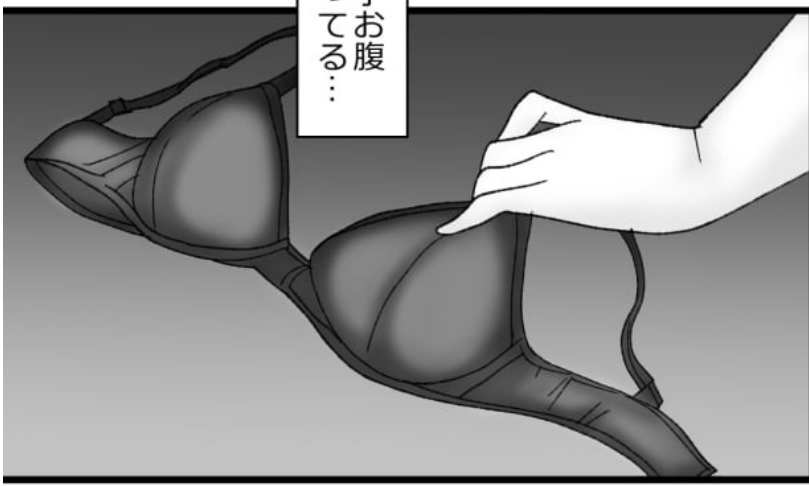
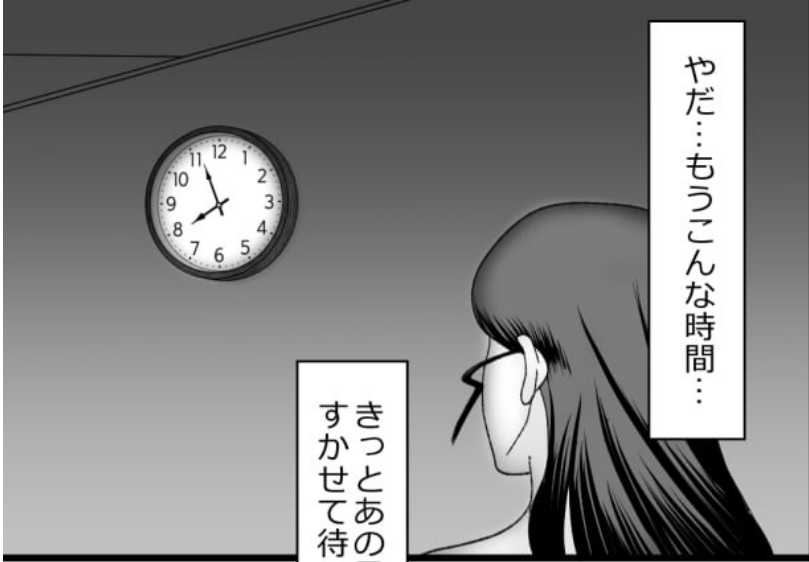
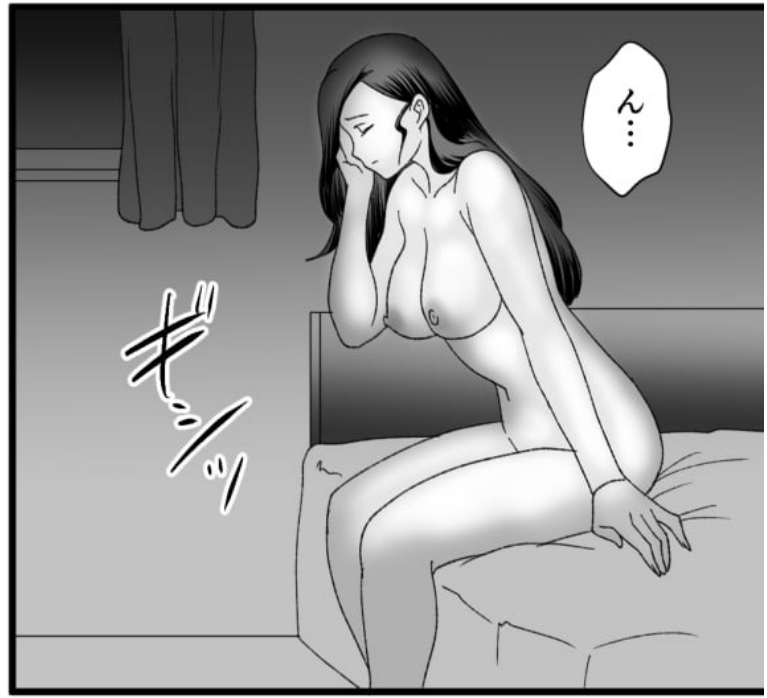
ニギッ

両足を絡めて間宮君の腰を引き寄せて  
私は自分の意思で膣奥への射精を許した…



膣内に間宮君の熱を感じながら  
私の意識はまどろみの中に  
消えていった…







男女が奏でるセックスの音に混じって私のスマホが震えているのが分かった…

きつと帰りが遅い私を心配してあの子がかけてきたんだろ…

すい…♡

あッ♡

あん♡

あッ♡



ごめんね…お母さん…今…

あッ♡

あッ♡

あん♡

はあん♡

母親として最低なのはわかってる…取り返しのつかない裏切りだと責めるように自分を問い詰めても返ってくるのは…快楽に濡れた吐息だけだった…

罪悪感が…間宮君の体の重みと重なって  
肌へのしかり身動き取れない…

あ…♡

あん…♡

あ…♡

あの子が待つ家にどんな顔で  
帰ればいいのか…  
なんて言い訳しようか…

ギシッ  
ギシッ  
ギシッ

ギシッ

ギシッ

ギシッ

ズッ  
ズッ

ズッ

ズッ

あひっ♡

そんな現実的な思考は  
膣内に注がれた瞬間  
溶けて消えていった…

考えようとした言い訳より  
子宮に届いた熱の方が  
ずっと説得力があった…

あ…♡

あ…♡

あったかい…♡

ドクドク  
ドクドク  
ドクドク  
ドクドク

あ…♡  
あ…♡  
あ…♡  
あ…♡



ただいま…ッ  
遅くなってごめんね…ッ

やっと帰ってきた…

僕もうおなか  
ペコペコだよ

ホント  
ごめん…ッ

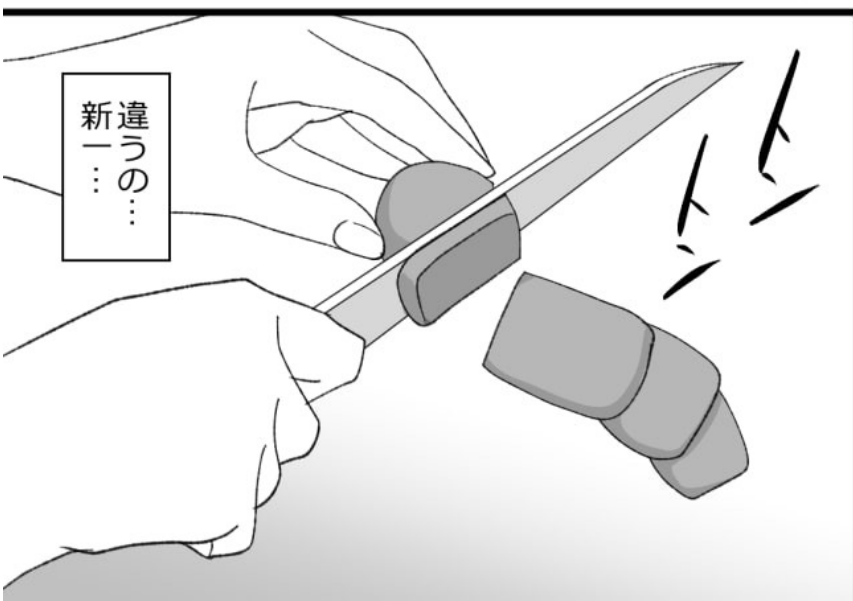
すぐご飯  
作るから…ッ



家庭訪問  
どうだった？

えッ!?

あいつの親に  
ガツンと  
言っちゃった？




違うの…  
新…



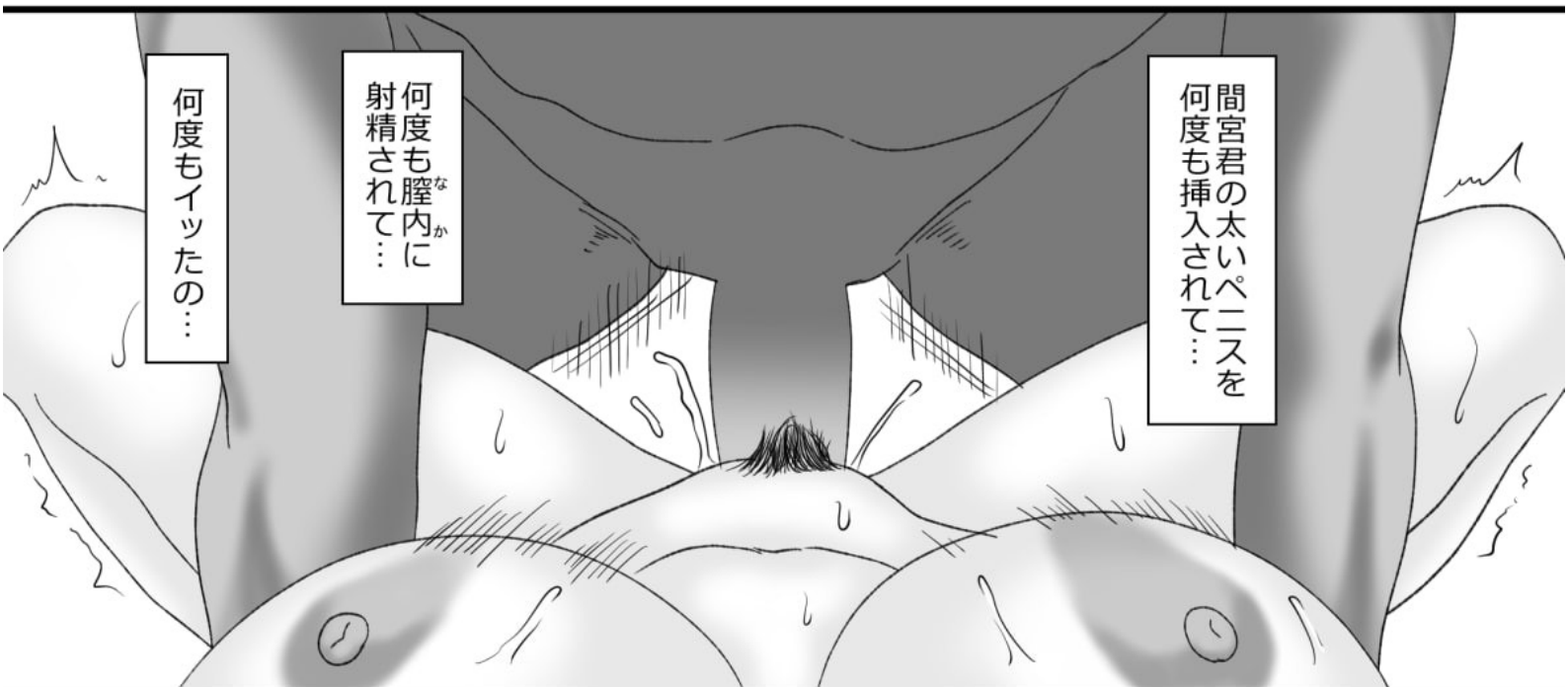
え…ええ…  
間宮君も態度を  
改めるって…

やったね！  
さすが母さん！



お母さんね…  
間宮君に…


あなたをいじめた子に  
征服されてきたの…



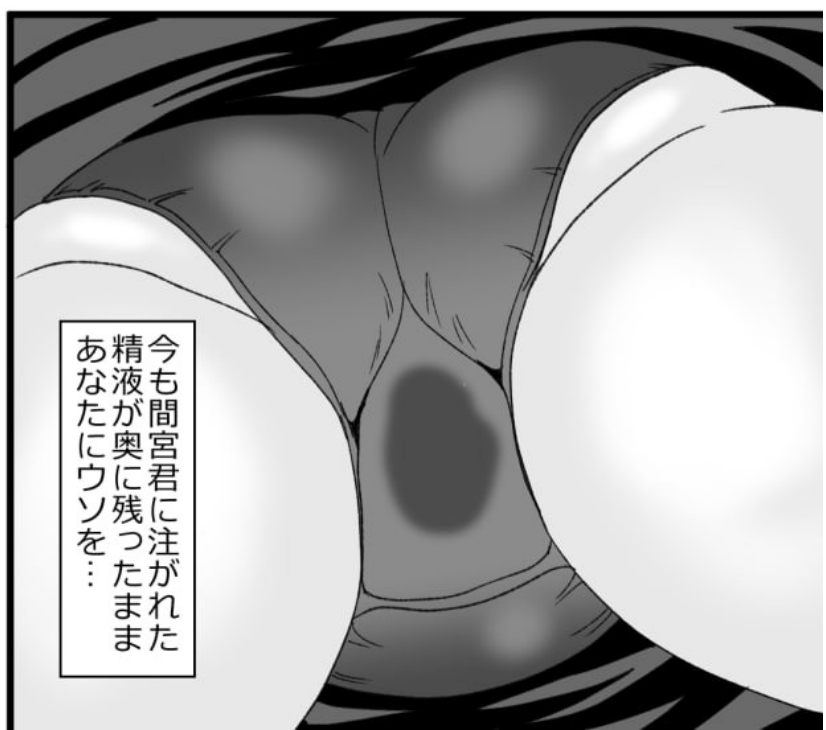
間宮君の太いペニスを  
何度も挿入されて…

何度も膣<sup>なか</sup>内に  
射精されて…

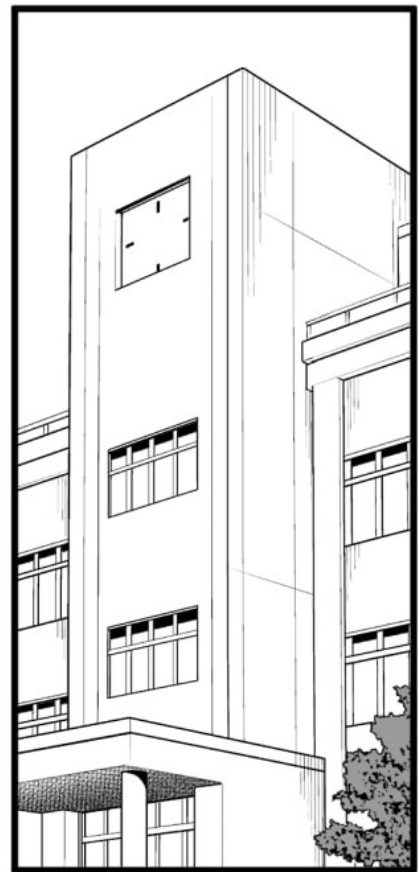
何度もイッたの…



ふしだらな  
お母さんを  
許して…



今も間宮君に注がれた  
精液が奥に残ったまま  
あなたにウソを…









先生分かった？  
一度快楽に屈した女の体は  
どんなに気取っても結局  
こうなるんだよ…

あッあッ♡

そん…なッ♡

違う…そんなの…  
違うはずなのに…

あッ♡

フッ

でも…言葉にされると  
逃げ場が無くなった…

フッ

フッ  
フッ

グッ

フッ

フッ

グググ

フッ

やッ♡

あッ♡



フッ

フッ

フッ

グググ

あッ♡

あッ♡

足の間に腰を迎え入れて…  
奥に当てられるたびに  
甘い声を上げて…  
問宮君の言葉を  
肯定してしまう…

あはあッ♡

グググ

また腔内なかに  
射精だすぞオラッ!

や……ッ  
ダメッ!!

拒むはずだった:  
もうあの子を裏切らないために  
終わらせるはずだった……  
それなのに……

先生が誰のモノに  
なったのか子宮に  
教え込んでやるよッ!!

イヤッ!  
イヤッ!

腔内なかは  
ダメエツ!!

あの子に知られたら……  
その恐怖に抗えず  
体もまた快樂に屈していく……

赤ちゃん  
デキちゃうッ!!

母として守るべきものと  
女として流される体……  
どちらも拒み切れずに  
再び腔内への射精を  
許してしまった……

ウ……ッ!!  
ウッ!!

あああああッ♡



もう乱れてイクしかない体にされてる…

は…♡

あ♡

はあん♡



はあ♡

あ♡

あ♡

どんなに抗つてもこの子の前では自分はただの女なんだと思いき知らされる…

あ♡



女を征服し慣れたその巧みな挿入に私は拒む理由さえ失っていった…

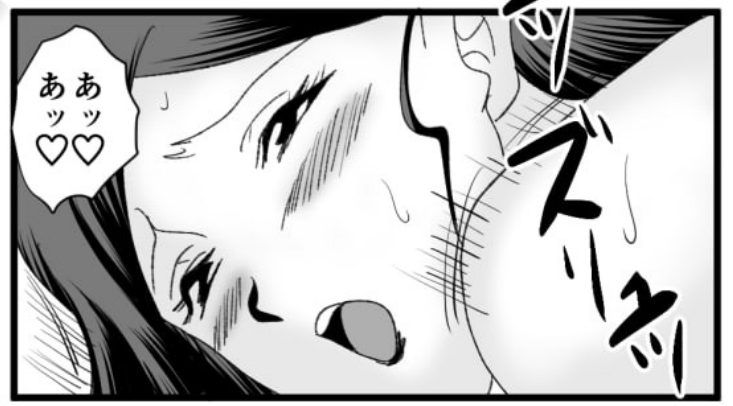
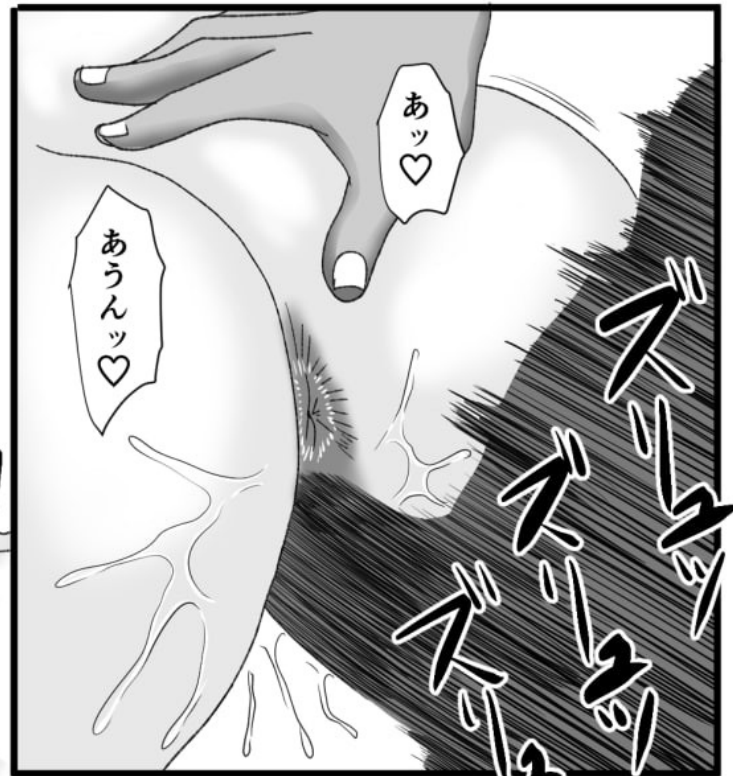
強いピストンだけじゃなく腰の奥をゆっくりすり上げてくる…

ん…♡

ふ…♡

ん…♡





横たえられていた体の向きを変えられて…

気づけばまた女の部分を差し出す服従の形で深く繋がっていた…

やんッ♡

ギンッ

あッ♡

あふッ♡



はあ…ッ♡

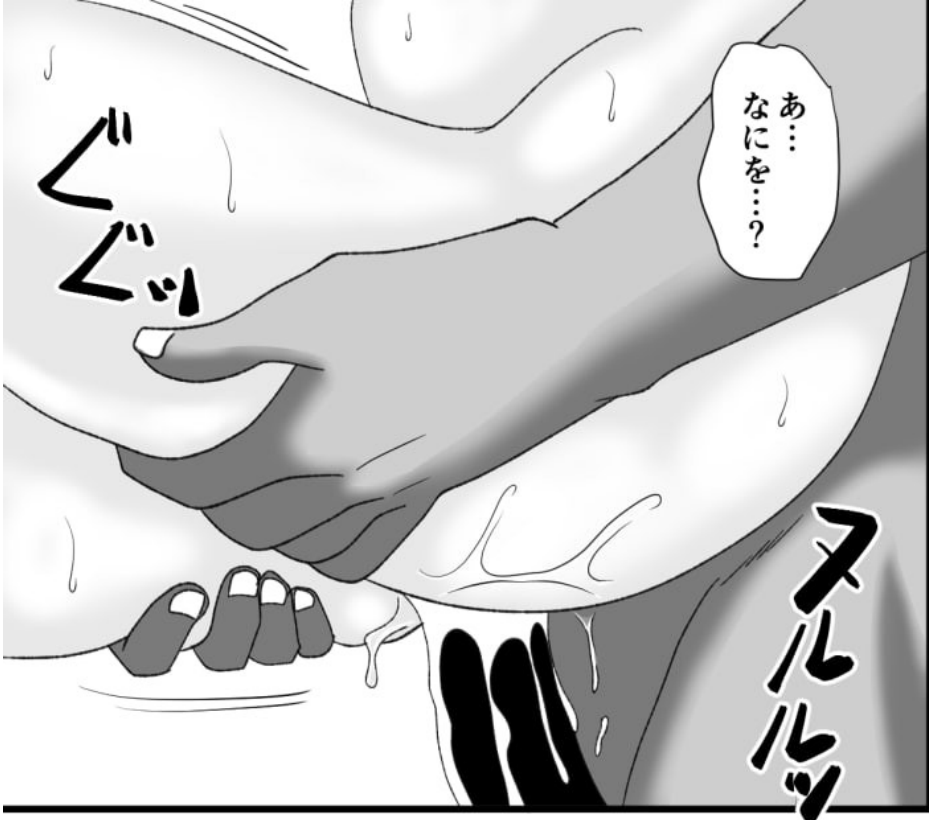
あッ♡

奥に当てられるたびに  
お尻の穴まで見られる  
恥ずかしさより…もつと  
深くを求めてしまう…

私は理性を持った  
大人の仮面を  
剥がされて…  
ただ本能に従う女へと  
変えられてしまった…

こんなのでえッ♡

お…く…ッ  
ダメッ♡





不意に持ち上げられて  
体を預けるしかなかった…

あッあッ♡

は…おッ♡

視線の届かない場所から  
為す術もなく間宮君の  
逞しい突き上げに支配されていく…

深…♡♡

あ…おッ♡

ガクッガクッ

ガクッガクッ

ズンッズンッ

ズンッズンッ

ズンッ



あッ♡

はッ♡

腕の中に抱えられて…もう自分の  
どこまでが私でどこからが  
彼のモノなのか分からなくなっていった…  
自分の意思なんてもうどこにもなかった…

はッ♡

おあッ♡

あッあッ♡♡

ズンッ

ズンッ

ズンッズンッ

ズンッズンッ



あッ♡  
あッ♡

イックウッ♡

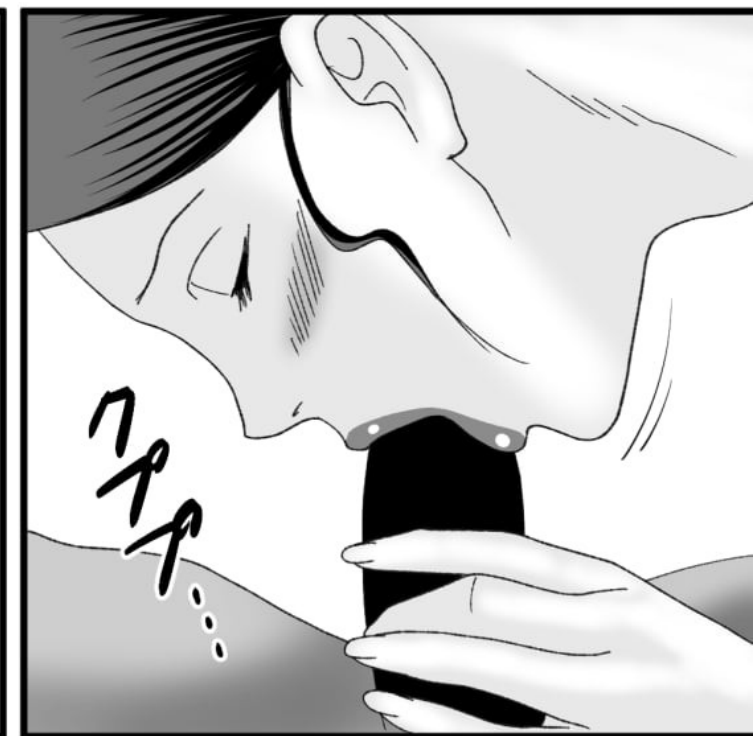
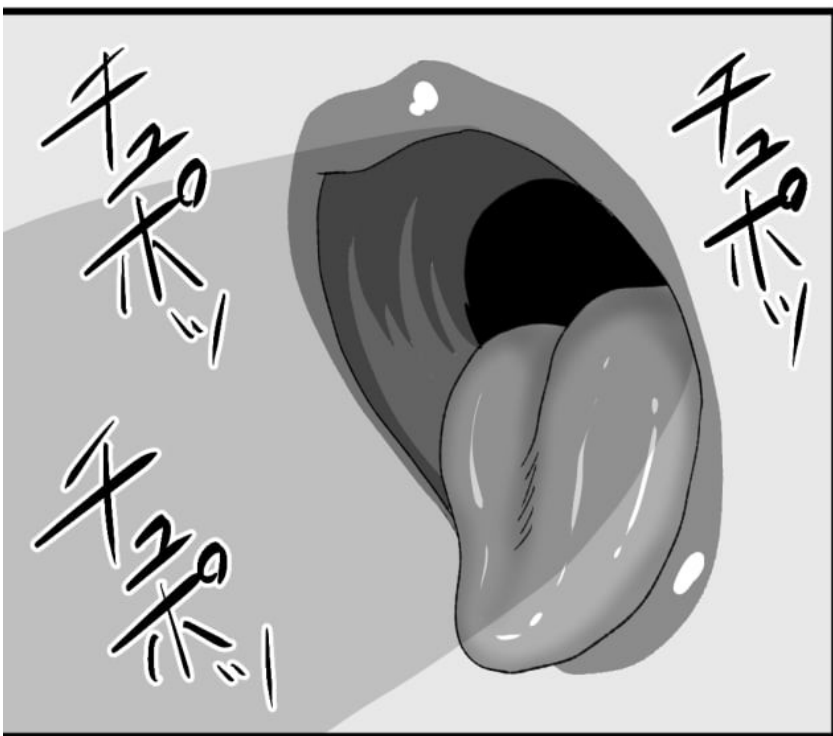
私…もう…ッ♡

私…もうダメ…ッ♡

敗北の声を上げながら  
子宮に注がれる精液と共に  
体を襲う快樂の濁流に  
飲み込まれてイッた…

ズシュー  
ズシュー  
ビクッ  
ビクッ  
ビクッ  
ビクッ







硬あいつ♡

は...あッ♡

ん...

クチュ...

ヌアツ

クアツ



あッ♡

あんあッ♡

はあッ♡

あッ♡

イカされたあとはもう間宮君に従うことが自然になっていた...

こうして尽くすことがいつの間にか自分の役目のように思えてしまっていた...

アハッ

アハッ

アハッ

アハッ

アハッ



生徒に女の悦びを与えられたただで  
ここまで心変わりしてしまうなんて…

はっはっ♡

はッあッ♡

あッんッ♡

グニッ

チュッ

チュッ

モニッ



その声に込められたものが  
欲望だけじゃない気がして…

綺麗だよ  
先生…

あんッ♡

間宮君…♡

気づけば胸の奥が  
熱くなっていく…

あッ♡♡

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

満たされたい欲求と私を見てくれているという承認欲求が溶け合っていく…

俺たちが繋がってる部分見える？

あ…見え…る…♡

すごくいやらしい…♡

間宮君と繋がっている—その事実がこれ以上なく自分の中の女を意識させた…

ゴシツ

ゴシツ

ゴシツ

ゴシツ

もう生徒にオマンコされて感じるの隠さなくなったね

あッ♡

やッ♡

言わないで…♡

あッ♡

あッ♡

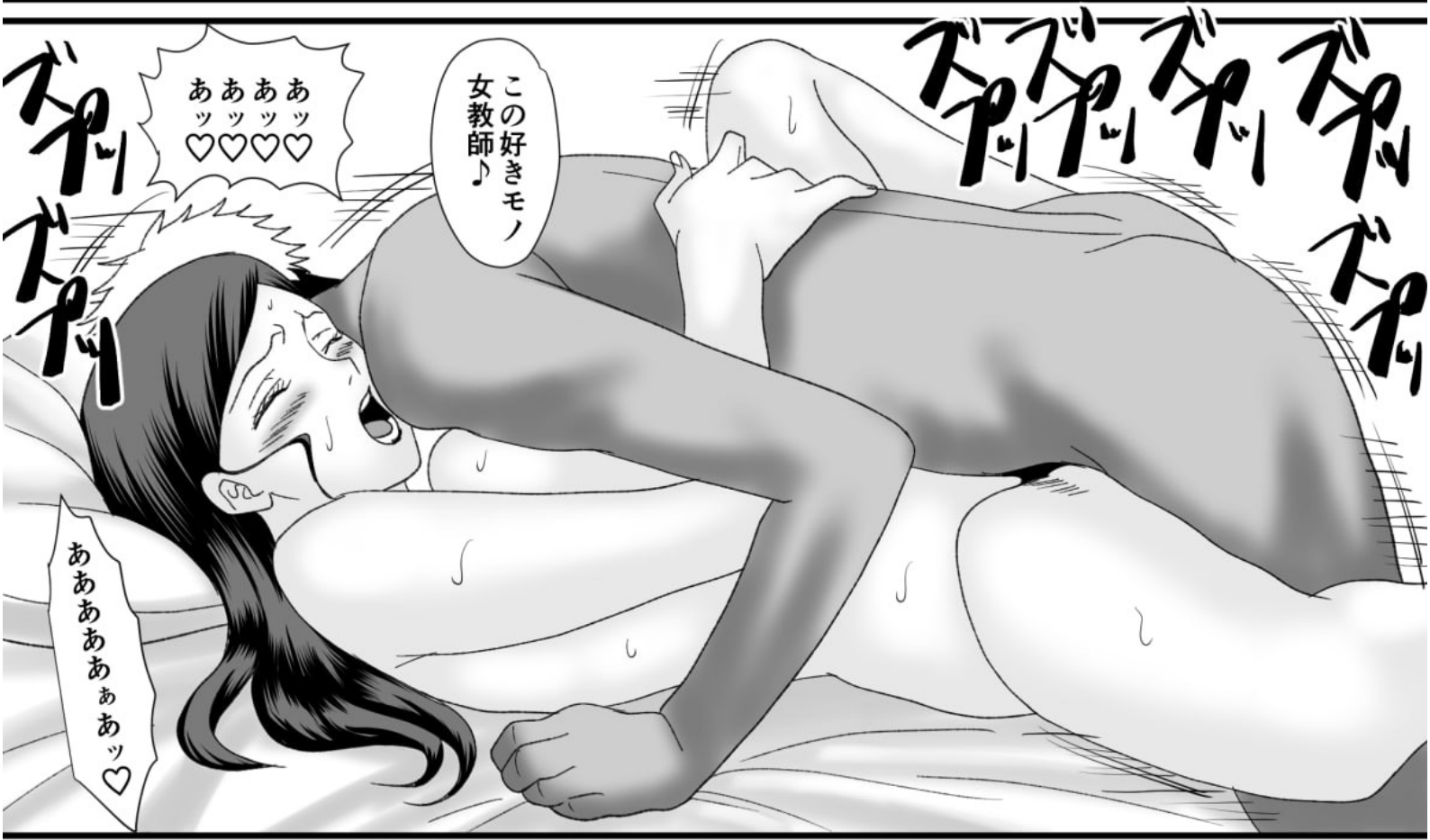
ゴシツ

ゴシツ

ゴシツ

ゴシツ

ゴシツ





私こんな  
初めてッ♡

すご…♡  
お…あッ♡

普段の自分では絶対言わないはずの  
欲望の言葉を口にしてしまい  
その代償として深く強く突かれてしまう…

♡ん♡

グッ

ズッ

あッ♡

あッ♡

グッ

間宮君の腰が何度も深く沈み込み  
膣奥にぶつかかる快感が私の理性を  
完全に飲み込んでいった…



ズッ  
ズッ  
ズッ  
ズッ

おまんこが  
気持ちイイの♡



どこが気持ちいいか  
素直に言ってみな？

あッ♡  
お…♡

おまんこ♡

グッ

グッ

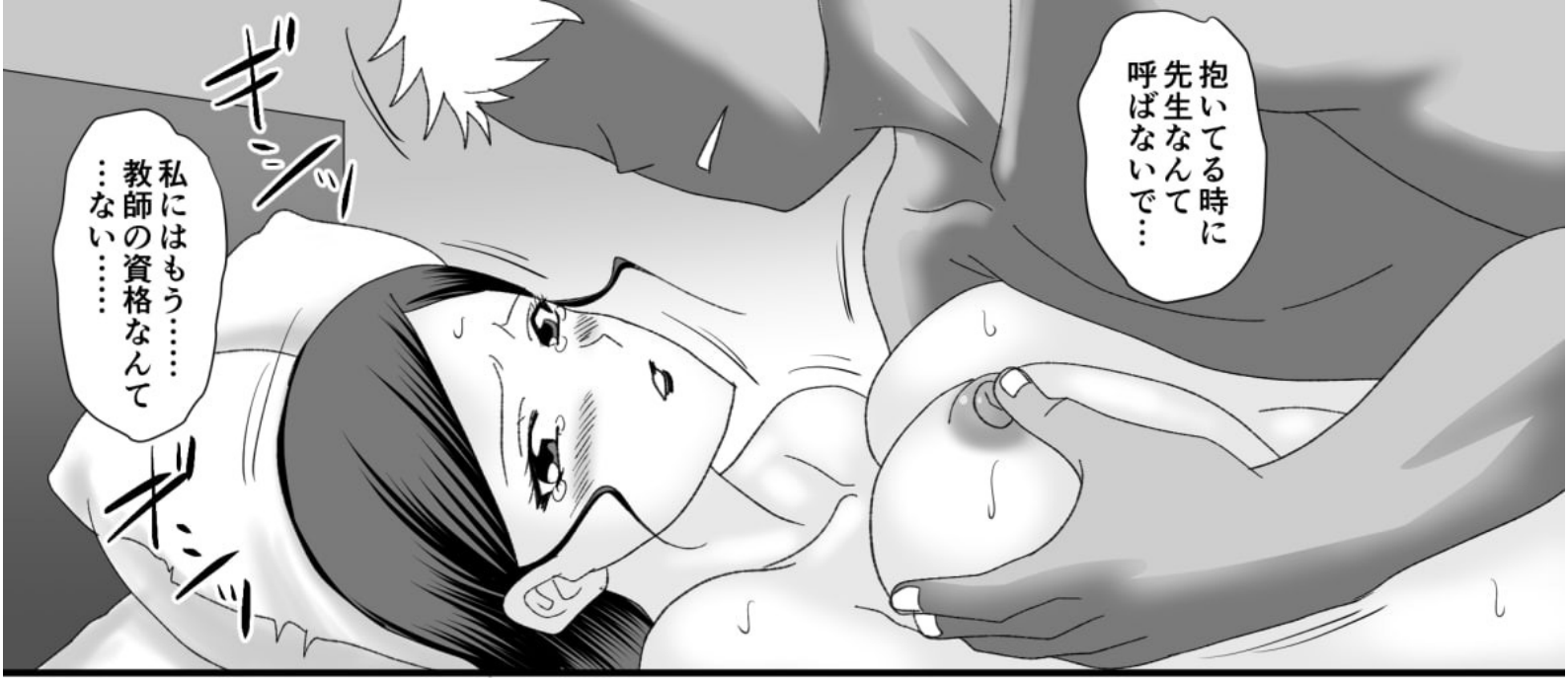
ズッ  
ズッ



お堅い先生の  
口からオマンコ  
なんて言葉聞けて  
感激だね♪

…♡

グッ



抱いてる時に  
先生なんて  
呼ばないで…

私にはもう……  
教師の資格なんて  
……ない……



な……  
名前で……

千草って  
呼んで……

スチャッ

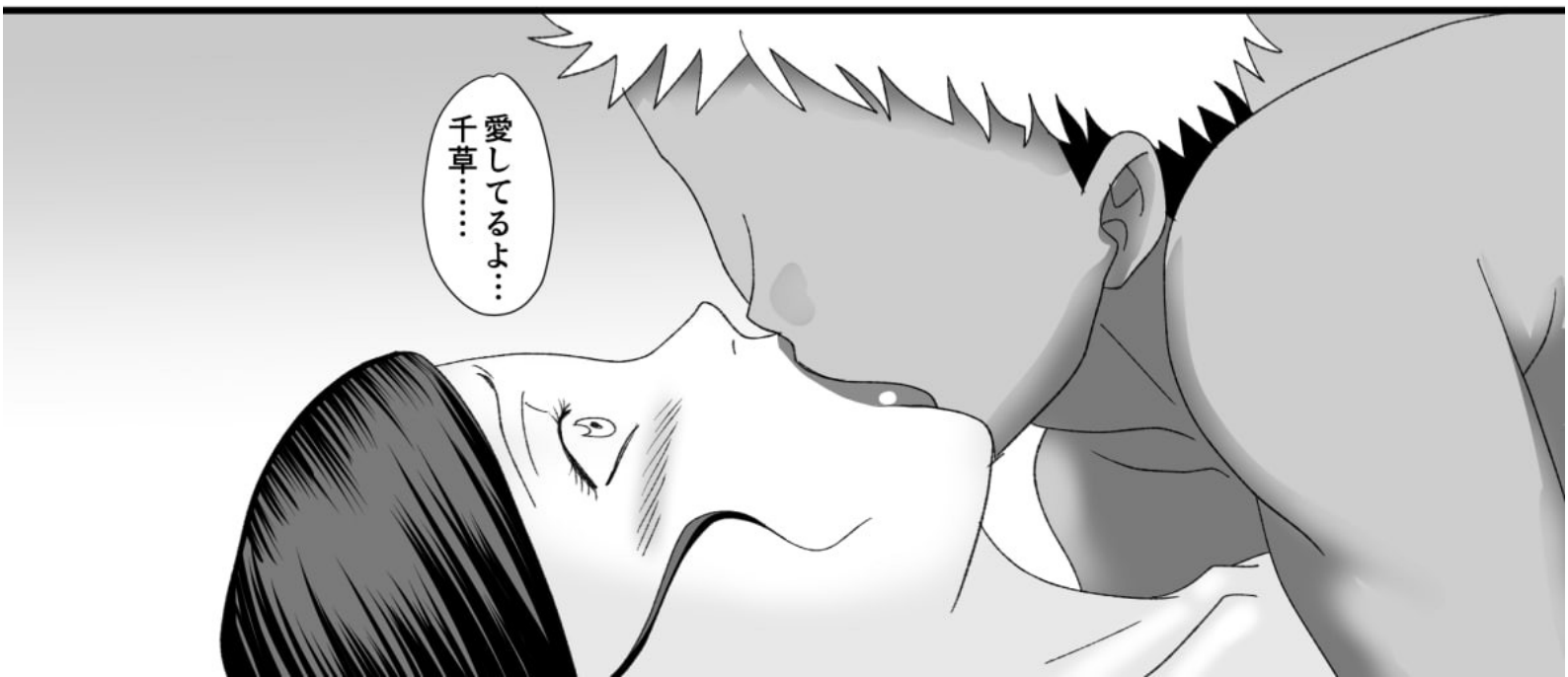


じゃあなんて  
呼んでほしい？

え……？

先生の好きな  
呼び方してやるよ

スチャッ



愛してるよ……  
千草……

「愛してる」—そんな言葉  
信じちゃいけないのに…

心のどこかでずっと誰かに  
そう囁いてほしかった…

……ッ!!

フキキ

フキキ

んッ♡

んッ♡

んうッ♡

ズンズン

ふうん♡

んううッ♡

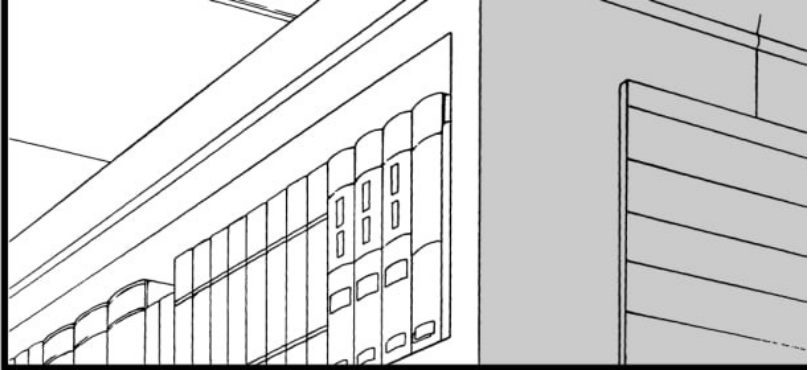
ドドド

ドドド

ドドド

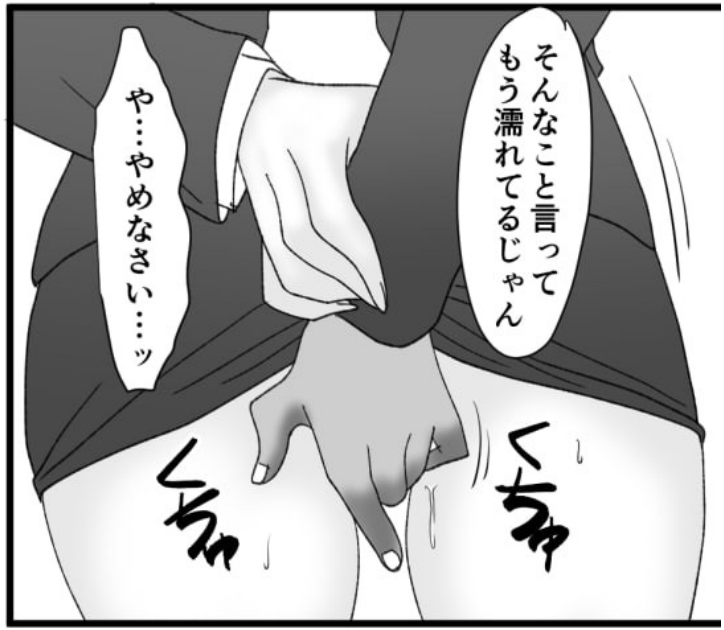
「母さん」でもなく「先生」でもなく  
自分だけの名前を呼ばれながら  
挿し込まれたペニスが深い所で  
弾けた瞬間…

心まで抱かれた私は  
間宮君の女になつた…



言いつけは守ってきたか？  
千草…

間宮君…お願い…  
下着を着けさせて…



そんなこと言ってもう濡れてるじゃん

や…やめなさい…ッ

くちゅ くちゅ



こんなのをもし誰かに見られたら…



こんな朝っぱらから図書室に来る奴なんていねえよ…

でも誰か来たら…



ホラ…ハメてやるからケツ向けろよ…

えッ!? 待ってッ!!

ここですのッ!?

静まり返った学校の  
図書室の奥で  
背後から  
潜り込んでくる熱に  
身を委ねながら  
教え子だったはずの  
間宮君に  
私はまたひとつ  
教えられていく…

にゅるーっく

は…んっ♡

誰かにこの痴態を  
見られてしまうかもしれない…

そんな緊張と羞恥に濡れる心を  
背徳の快感が静かに…  
確実に上書きしていく…

教師のくせに  
牝の顔で  
喘ぎやがって…

そんなに学校で  
生徒にハメられるのが  
イイのかオラッ!

あッ♡

気持ち…イ…っ♡

あッ♡

あッ♡

あッ♡

あッ♡

フキッ  
フキッ  
フキッ

濡れていた…  
ろくに愛撫もされていないのに  
間宮君の太いペニスを根元まで  
受け入れられるほどに…

はあッ♡  
あッ♡

はんッ♡

カクッカクッ

あ…くッ♡

ホァ  
ホァ

私の体はいつ何処でも間宮君を  
迎える器として作り変えられたのだと  
ハッキリと自覚させられた…

あんんッ♡

アッ

アッ  
アッ  
アッ

アッ  
アッ  
アッ

その事実が悔しいほどの  
快感と共に私の中を  
何度も満たしていく…

そと…にッ♡

あッ♡

やッあッ♡

イクぞッ  
千草ッ!

全部受け止めるよッ!!

アッ

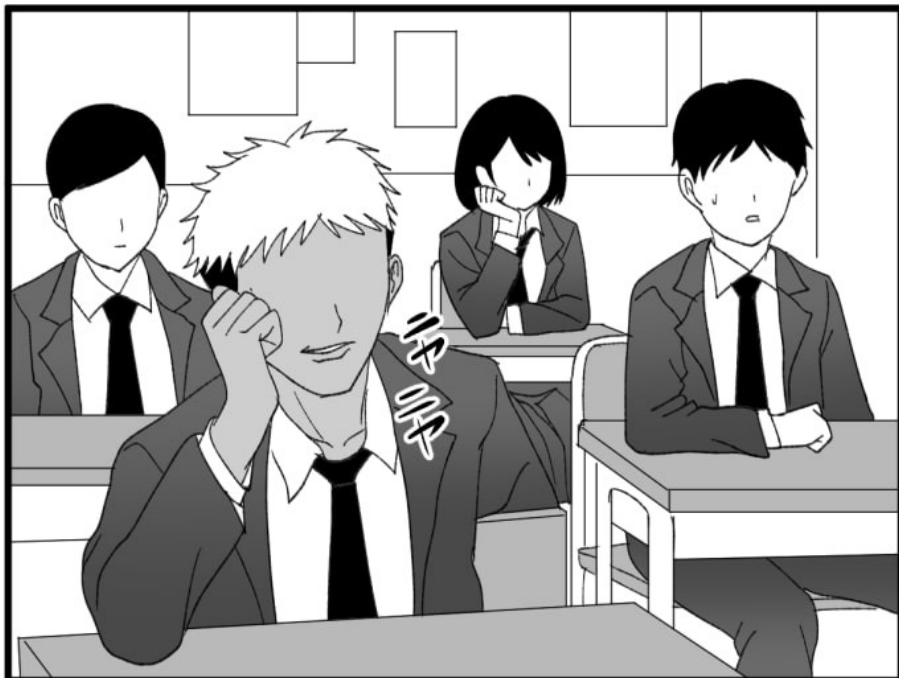
アッ  
アッ  
アッ

あッ♡

アッ  
アッ

アッ





かつてあの子に授乳した乳房で  
間宮君のペニスに奉仕することに  
罪悪感を覚えながらも：

胸をこんな風に  
使うなんて：

男の子って  
こういうのが  
気持ちいいの？

それでも間宮君に尽くすことに  
悦びを感じるまでになつていた：

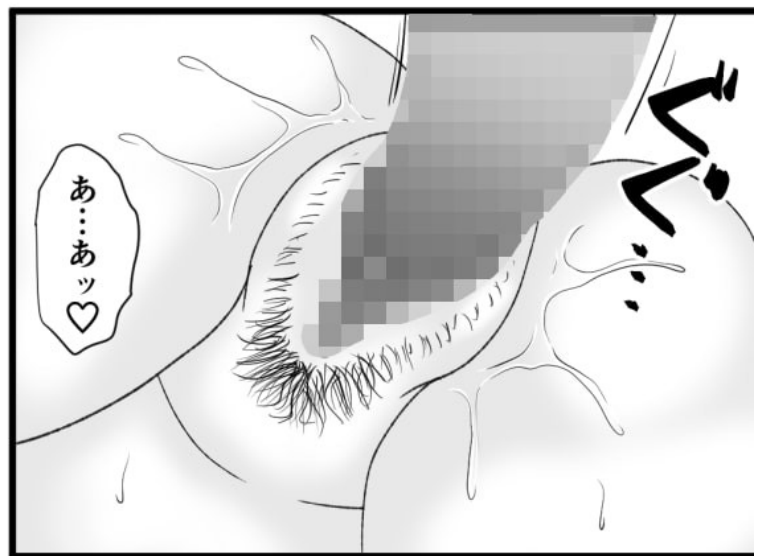
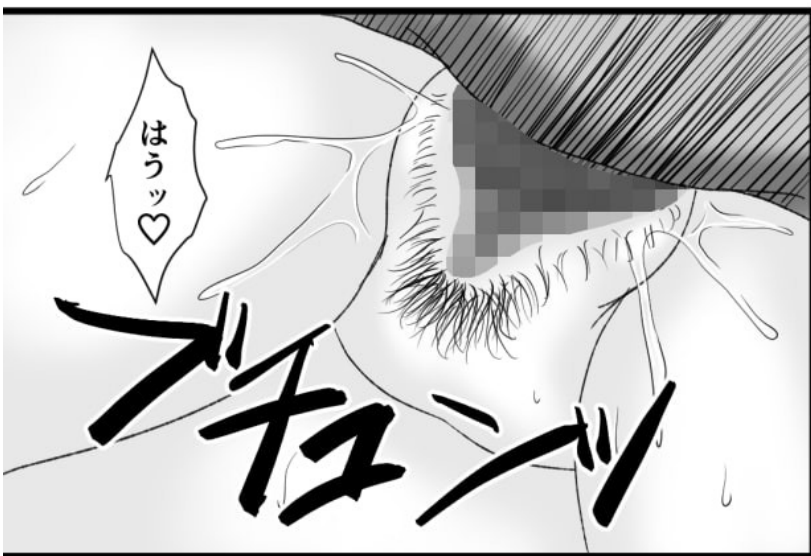
前から千草に  
パイズリして  
もらいたかったから  
すげえ気持ちいいよ：



せっかくイイ乳  
持つてんだから  
使わないとな：

もう…変態  
なんだから…





無理やり関係を結ばされた肉体は  
いつの間にか馴染んで  
それに適応するかのよう  
に心まで  
少しずつ形を変えてい  
った…

千草のオマンコ  
たまんねえッ!!

あッあッ♡

ひあッ♡

ズッ  
ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ  
ズッ

どっぴゅっ  
どっぴゅっ

どっぴゅっ  
どっぴゅっ

どっぴゅっ  
どっぴゅっ

あれほど拒んでいた  
膣内射精すら  
悦んで受け入れる  
ようになっていた…

膣内  
で  
射精  
ぞッ!!

間宮君♡

きて♡

きて♡

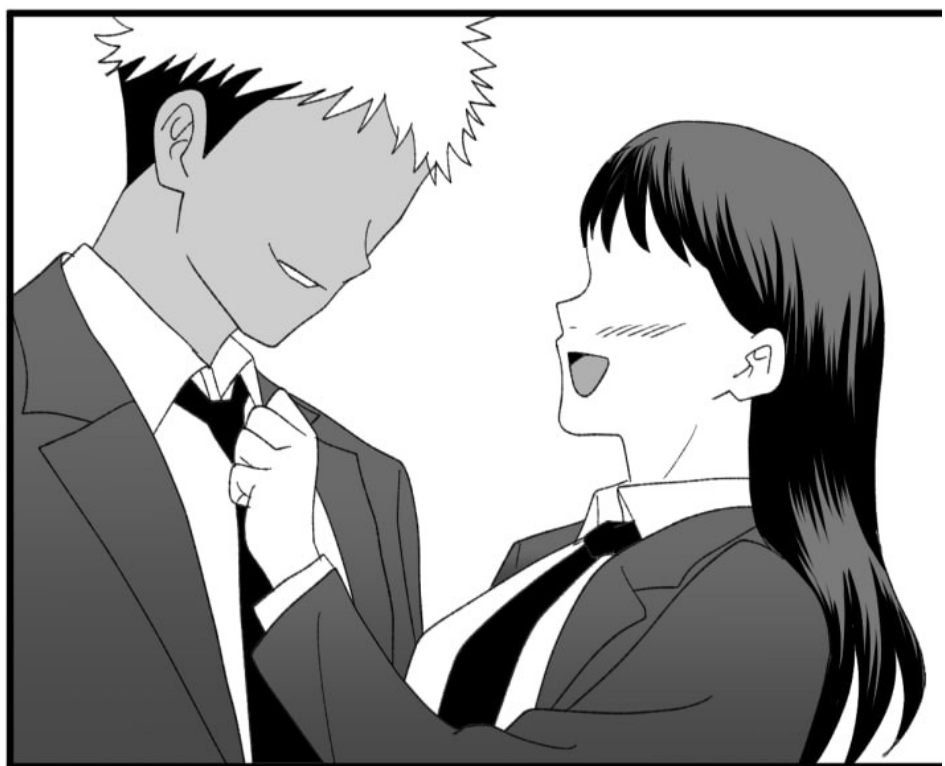
あ…♡  
あ…♡

あったかい…♡





あれは間宮君と…  
吉岡さん…？



ギンツ

あッ♡

はあッ♡

ん♡

ギンツ

あん♡

は♡

は…♡

ギンツ



一緒に……♡

お願い……♡

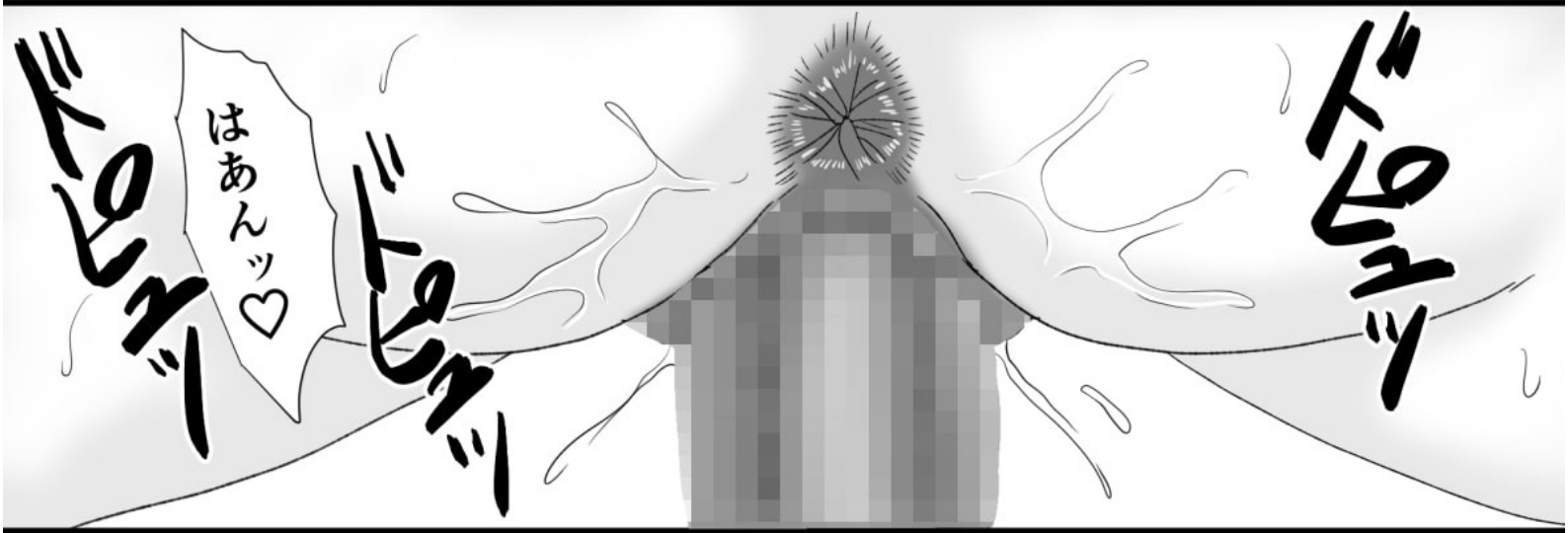
あッ♡  
イクッ♡  
イクッ♡



あッあッ♡

間宮君♡

私……もう  
イクそう……♡



はあん♡

ドクドク♡

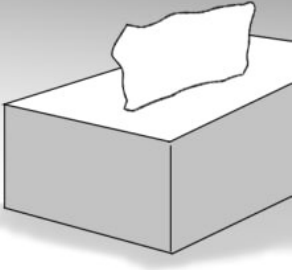
ドクドク♡



あん？  
ただ話して  
ただだろ……

今日学校で  
吉岡さんと  
何話してたの……？

ねえ……  
間宮君……





別にそんなんじゃ…ッ!!

それよりさ…  
今度のテスト代わりに  
答え書いといてくれない?

そんなこと  
できるわけ  
ないじゃないッ!!



なに?  
妬いてんの?



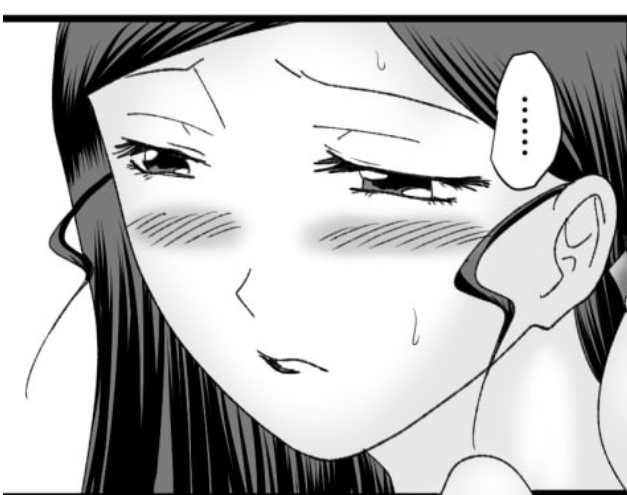
でないと俺…  
吉岡と付き合っちゃうかも…

おろろ

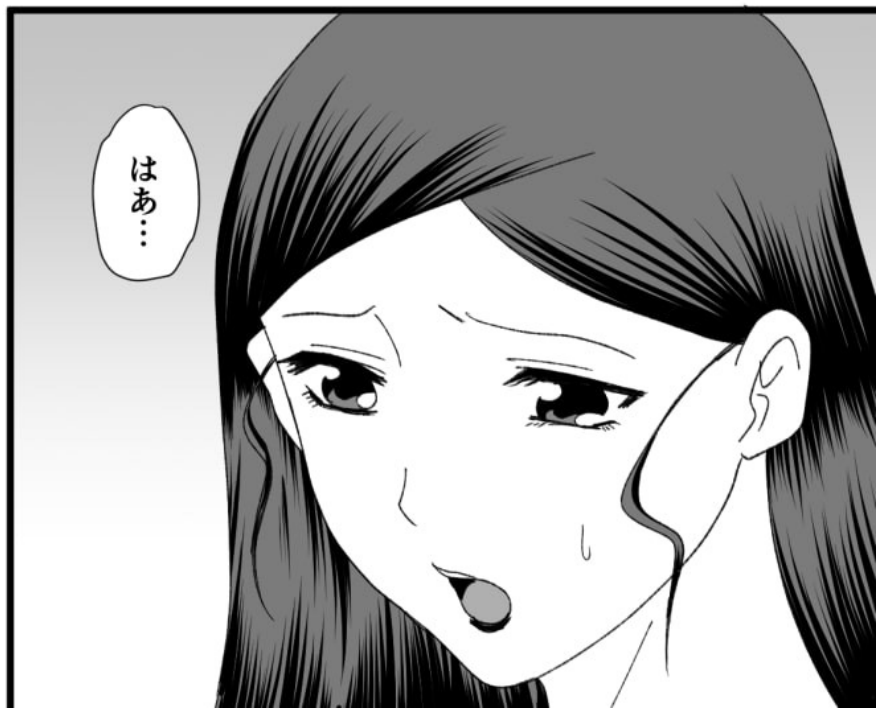
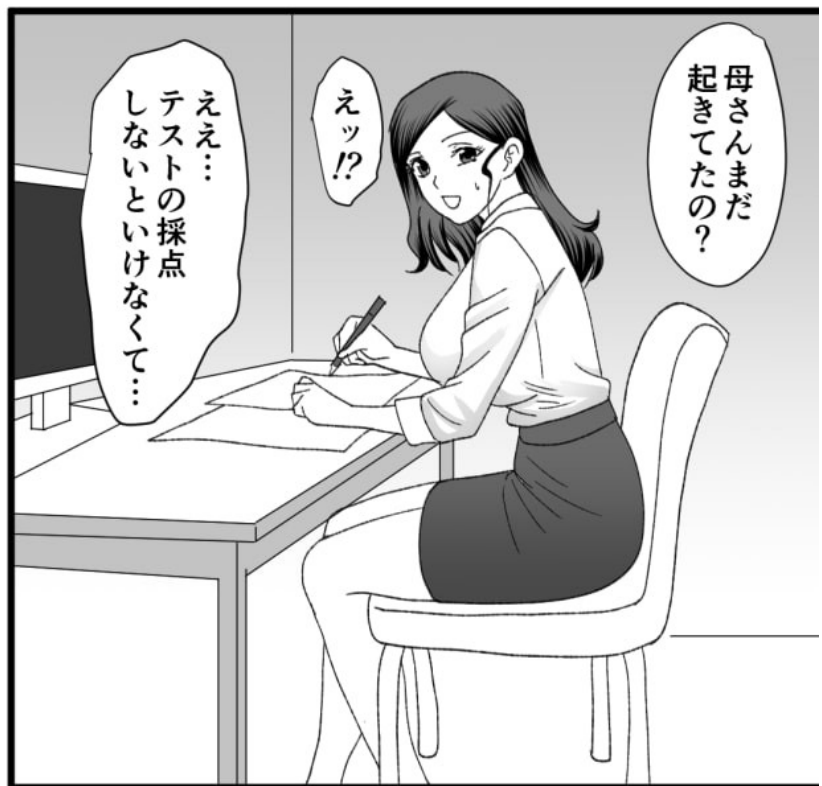


頼むよ千草あ…  
補習受けるの  
ダリイんだよ…

んッ

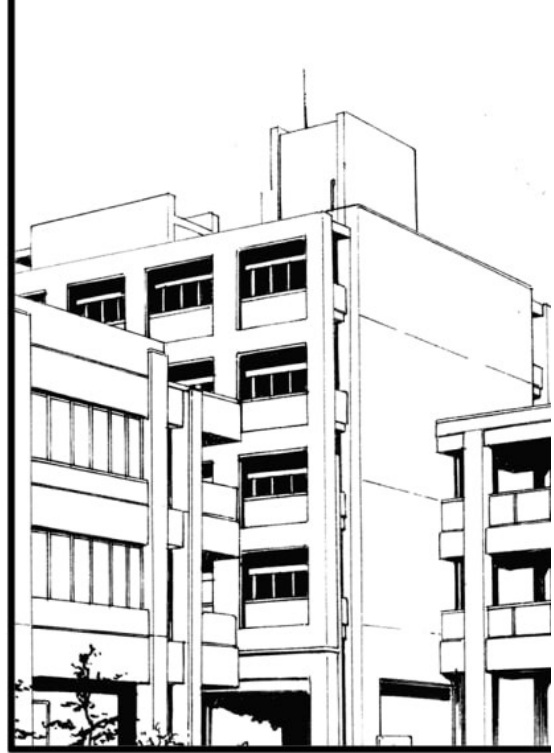


……









なんで…ッ!?

どうして  
あんな奴とッ!?

母さんは全てを話し始めた…

間宮の家に家庭訪問に行ったあの日…  
あいつと男女の関係になっちゃったこと…

いけないことだとわかっていたけど  
僕にバラされたくなくて言われるがままに  
関係を続けてしまったこと…

そして何度も抱かれていますうちに  
間宮から離れられない体になっちゃったこと…

ごめんね…  
新一…

でも間宮君のこと  
愛してるのッ!!

どうしようも  
ないくらいッ!!

僕は何も言えなかった…

玄関に置かれた段ボール箱の中には  
必要最低限の衣類と日用品…

どれも見慣れたものばかりなのに  
もうこの家では使うことはないと思うと  
涙が滲んだ…

無理しないでね…

ちゃんと食べるのよ…

リビングからかすかに聞こえる  
いつもの母さんの優しい声…

でももう二度とその言葉を  
まっすぐには受け取れない…

うん…

僕をいじめた間宮にいつの間にか  
母さんを孕まされていた現実に  
耐えられず僕は産むのに反対した…

それなのに母さんは  
間宮の子を産むと  
譲らなかつた…

愛する人の子を産みたい…  
母さんのその言葉が  
僕の居場所を奪った…

そして僕は  
家を出ることを  
決心した…

すると入れ替わるように  
間宮があの家に住み着いた…

もうあの家は  
帰る場所じゃない…

あッ♡

あんッ♡

母さんとの思い出が  
詰まったあの家は…

あひッ♡

イイッ♡

あッあッ♡

間宮くん♡

二匹の獣の棲家になった…

もっとキテェ♡

ムルッ

イクッ♡  
イクッ♡

ンあッ♡

またイクウッ♡

どひゃっ

どひゃっ